

2018 年度下関市立大学

国際交流白書

(下関市立大学における国際交流の実情について)



はじめに



本学が立地する下関は、古くから大陸との人的・物的な接点があることから、大学の理念にも「下関から東アジア、さらには世界へと目を向けることで、現在の国際関係がどのような構造を持っているのか、またそれがどのようにして作られてきたのかを理解することができるのです。本学は、こうした地の利を活かし、国際社会における人々の交流と共生のあり方についての理解を深め、新たな展望を切りひらくことをめざします」ということを掲げており、毎年さかんに国際交流を推進しています。

その第一歩は、1988年4月に初めて外国人留学生を受け入れたことにさかのぼることができ、その後1989年の中国・青島大学との交流協定締結を皮切りに、韓国の東義大学校及び木浦大学校、オーストラリアのグリフィス大学及びクイーンズランド大学、中国・北京大学、アメリカ・ロス・メダノス・カレッジ、トルコ・ボアジチ大学、台湾・国立聯合大学、ドイツ・ルートヴィヒスハーフェン経済大学、カナダ・アルゴマ大学、そして2015年8月の台湾・銘傳大学へと協定も拡大しました。

今年度は中国・台湾・韓国・ベトナム・マレーシア・パキスタン・ドイツ・タイ・トルコからの留学生63名が本学で学んでいます。これらの留学生は、勉強以外にも学内外のイベントに参加し、見聞を広めています。これに関連して、「国際交流会ともだち」や「中国語しゃべっちゃイナ」といった学生団体も、留学生の歓送迎会やスピーチコンテスト等のイベントに携わっています。

一方、派遣留学、外国研修、国際インターンシップ、その他の研修などを通じて近年150名程度の学生が、海外での学習・研修・生活を通じて貴重な体験をしています。さらに学内サークル「WSK」も独自にボランティア活動やイベントを企画・実施し、国際交流に取り組んでいます。

本白書には、上記に掲げた国際交流に関わった学生の瑞々しい体験談が数多く掲載されています。そういう訳でこれまで国際交流にそれほど関心を抱かなかった人や、海外体験に興味があるがどうやっていいのかわからないという人は、ぜひこの白書を手にとっていただきたいと思います。そうすることで、新たな視野が広がることと思います。

グローバル化する社会の中で、海外あるいは異文化を意識することは一層重要になってくると考えられます。在学中に何らかの異文化体験を積んでいただき、多くの人から新たな体験談が寄せられることを期待しています。

2019年3月

下関市立大学経済学部
学部長 高橋 和幸

目次

■ 下関市立大学の国際交流

在籍留学生数	2
海外留学等の体験者数	3
2018年度国際交流行事	4
下関市立大学でできる国際交流活動	5
日本にいながら世界を知ろう!!	6
下関市立大学弁論大会	8
派遣留学とは	10
外国研修・国際インターンシップ・私費留学とは	12

■ 留学のための経費支援

奨学金	14
授業料・入学金減免制度	16
特待生	16

■ 留 学 (受入れ)

外国人留学生サポート	18
下関市立大学で学んだ留学生の感想文 (短期留学生)	20

■ 派遣留学

北京大学 (中国) の紹介	26
青島大学 (中国) の紹介	27
派遣留学体験記・参加者レポート	28
銘傳大学 (台湾) の紹介	30
派遣留学体験記・参加者レポート	31
東義大学校 (韓国) の紹介	33
派遣留学体験記・参加者レポート	34
木浦大学校 (韓国) の紹介	36
派遣留学体験記・参加者レポート	37
ロス・メダノス・カレッジ (アメリカ) の紹介	39
派遣留学体験記・参加者レポート	40
アルゴマ大学 (カナダ) の紹介	42
派遣留学体験記・参加者レポート	43
ボアジチ大学 (トルコ) の紹介	45
派遣留学体験記・参加者レポート	46
ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (ドイツ) の紹介	48
派遣留学体験記・参加者レポート	49
クイーンズランド大学 (オーストラリア) の紹介	51
派遣留学体験記・参加者レポート	52
グリフィス大学 (オーストラリア) の紹介	54

■ 外国研修

外国研修 (英 語)	56
外国研修 (中国語)	59
外国研修 (朝鮮語)	62

■ その他の交流

生涯スポーツ a	66
生涯スポーツ b	68
海外体験 (カンボジア)	70
海外体験 (青年の船)	72

下関市立大学の国際交流

下関市立大学では、留学生の受け入れや派遣留学、国際理解のための様々な交流事業を行っています。

在籍留学生数

2018年度		中国	台湾	韓国	ベトナム	マレーシア	パキスタン	ドイツ	タイ	トルコ	小計		
学部1年生	男	6		1			1				8	学部生 42人	
	女	3				1					4		
学部2年生	男	2		1							3		
	女	3			2						5		
学部3年生	男	2									2		
	女	5			1						6		
学部4年生	男	8		1							9		
	女	5									5		
大学院1年生	男										2		院生 5人
	女	2									2		
大学院2年生	男	1									1		
	女	2									2		
特別聴講学生 (交換留学生)	男		1	2				2			5	13人	
	女	5	1	2							8		
科目等履修生 (外国人留学生)	男	1							1		2	3人	
	女									1	1		
小計		45人	2人	7人	3人	1人	1人	2人	1人	1人	(5月1日現在)		
2017年度		中国	台湾	韓国	ベトナム	マレーシア	パキスタン	ドイツ	タイ	トルコ	小計		
学部1年生	男	2		1							3	学部生 42人	
	女	3			2						5		
学部2年生	男	2									2		
	女	5			1						6		
学部3年生	男	5		1							6		
	女	5									5		
学部4年生	男	11			1						12		
	女	3									3		
大学院1年生	男	1									1		院生 6人
	女	2									2		
大学院2年生	男	1									1		
	女	2									2		
特別聴講学生 (交換留学生)	男		1	2				1			4	12人	
	女	6		1				1			8		
科目等履修生 (外国人留学生)	男										3	3人	
	女	1							1	1	3		
小計		49人	1人	5人	4人	0人	0人	2人	1人	1人	(5月1日現在)		

海外留学等の体験者数

年 度		2014	2015	2016	2017	2018	年 度	
外国研修	中国語	—	10	24	29	30	中国語	外国研修
	朝鮮語	21	16	12	16	13	朝鮮語	
	英 語	18	15	24	26	13	英 語	
	小 計	39	41	60	71	56	小 計	
派遣留学	北京大学	1	—	—	1	—	北京大学	派遣留学
	青島大学	1	1	1	1	2	青島大学	
	銘傳大学	—	—	—	2	—	銘傳大学	
	東義大学校	2	2	2	1	3	東義大学校	
	木浦大学校	2	2	1	2	2	木浦大学校	
	ロス・メダノス・カレッジ	4	4	1	4	—	ロス・メダノス・カレッジ	
	アルゴマ大学	—	—	4	1	5	アルゴマ大学	
	ボアジチ大学	1	1	—	1	1	ボアジチ大学	
	ルートヴィヒスハーフェン経済大学	2	1	1	2	2	ルートヴィヒスハーフェン経済大学	
	クイーンズランド大学	3	2	2	2	3	クイーンズランド大学	
	グリフィス大学	2	—	—	—	—	グリフィス大学	
小 計	18	13	12	17	18	小 計		
国際 インター ンシップ	青島市（中国）	4	7	6	5	2	青島市（中国）	国際 インター ンシップ
	大連市（中国）	—	—	—	—	—	大連市（中国）	
	釜山広域市（韓国）	4	—	3	6	4	釜山広域市（韓国）	
	シンガポール	6	10	10	14	11	シンガポール	
小 計	14	17	19	25	17	小 計		
その他研修・PBL等		28	9	34	36	56	その他研修・PBL等	
研究旅行等（院）		1					研究旅行等（院）	
私費留学 （教授会承 認分）	中国語圏				1		中国語圏	私費留学 （教授会承 認分）
	韓国語圏					1	韓国語圏	
	英 語 圏	1		5	2	6	英 語 圏	
	そ の 他						そ の 他	
小 計	1		5	3	7	小 計		
合 計		101人	80人	130人	152人	154人	合 計	
年 度		2014	2015	2016	2017	2018	年 度	

この表は、派遣留学、単位認定を伴う科目での海外経験、教員が引率する研修やPBL等の参加者、及び教授会で留学目的の休学を認められた私費留学の体験者数です。長期休暇中の海外旅行等は含んでいません。

2018年度 国際交流行事

4月3日(火)	新入生オリエンテーション「バスの乗り方とお買い物教室」
4月4日(水)	入学式
4月4日(水)	下関市リサイクルプラザ見学
4月5日(木)	下関市内探検・防災ツアー
4月9日(月)	花柳流日本舞踊開講式
4月26日(木)	留学生歓迎会(国際交流会ともだち主催)
5月2日(水)	先帝祭関連行事「安徳帝正装参拝」
5月14日(月)	下関ロータリークラブ交流会(下関ロータリークラブ主催)
5月19日(土)	名陵校区地域こども教室交流 ※以降奇数月実施
5月21日(月)	社会福祉法人三明会豊北きらきらこども園交流※ 以降毎月実施
5月25日(金)	2018年度第1回日本にいながら世界を知ろう!!
6月21日(木)	2018年度第2回日本にいながら世界を知ろう!!
6月30日(土)	下関塾(下関市主催)
7月9日(月)	世界の厨房から(国際交流会ともだち主催)
7月21日(土)	2018年度第1回日本文化の神髄を知ろう!!
9月14日(金)	新入生オリエンテーション「バスの乗り方とお買い物教室」
9月20日(木)	下関市リサイクルプラザ見学
9月21日(金)	下関市内探検・防災ツアー
10月7日(日)～8日(月)	馬関祭(大学祭)
10月13日(土)	中国人留学生市内バスツアー
10月28日(日)	櫻井八幡宮例大祭
11月1日(木)	第6回日本語スピーチコンテスト
11月3日(土)	全日本中国語スピーチ大会山口県大会(下関市日中友好協会主催)
11月8日(木)・ 12日(月)・13日(火)	2018年度第2回日本文化の神髄を知ろう!!
11月10日(土)	留学生ホームビジット交流対面式(山口県国際交流協会主催)
11月17日(土)	中国人による滞日体験発表会(下関市日中友好協会主催)
11月18日(日)	2018年度留学生交流会バスツアー(大学コンソーシアム関門主催)
11月29日(木)	第10回中国語スピーチコンテスト
12月12日(水)	第14回コリアンスピーチコンテスト
12月14日(金)	クリスマスパーティ(下関市ユネスコ協会主催)
12月19日(水)	2018年度第3回日本にいながら世界を知ろう!!
1月12日(土)	第11回食・見・交・群～餃子パーティ～(協力:中国語しゃべっチャイナ)
1月22日(火)	2018年度第4回日本にいながら世界を知ろう!!
3月25日(月)	卒業式

下関市立大学でできる国際交流活動

国際交流や国際理解は身近なところから始められます。海外に行かなくても下関市立大学の中で様々な国の方々と触れ合ったり、国際交流体験をしたり、国際理解をすることもできます。

例えば、中国をはじめとする台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、パキスタン、ドイツ、タイ、トルコなどの国々からやってきた留学生が下関市立大学で修学しています。彼らと共に修学や研究、サークル活動やイベントに参加することで、国際交流や異文化理解、国際理解が深まります。海外からのお客様をお迎えし、学生と交流をする企画等もあります。国際交流センターでは多くの学内外での国際交流活動の企画や紹介を行っています。

また、国際交流を行っている学内の学生サークルやサポート組織、自主サークルもあります。国際交流に関係のある学生グループの主な活動は以下のとおりです。

1. 国際交流会ともだち

- 4月 留学生歓迎会
- 5月 交流キャンプ
- 7月 世界の厨房から
- 10月 大学祭への出店や国際交流イベント
- 12月 ユネスコ主催クリスマスパーティのサポート
- 1月 留学生送別会



2. JASH!!!

- 週2回 英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションスキルの学習
- 10月 ハロウィンパーティ
- 12月 クリスマスパーティ

3. WSK

- 国際ボランティア活動
- Table for Two などの企画
- 世界のボランティア活動紹介
- 夏休みや春休みに海外でボランティア活動に参加



4. 中国語しゃべっチャイナ

- 週2回 中国語によるプレゼンテーションやコミュニケーション、中国文化学習
- 11月 中国語スピーチコンテストのサポート
- 1月 食・見・交・群～餃子パーティ～のサポート



日本にいながら世界を知ろう !!

「日本にいながら世界を知ろう!!」は、下関市立大学の学生や地域のみなさんに、世界中で起きていることや暮らしの様子、歴史的な事柄などを、各テーマ国の方や、その国で暮らしたことのある方々にお話をしていただく企画です。2018年度は4回開催しました。

第1回

タイトル：ドイツに興味はありますか？

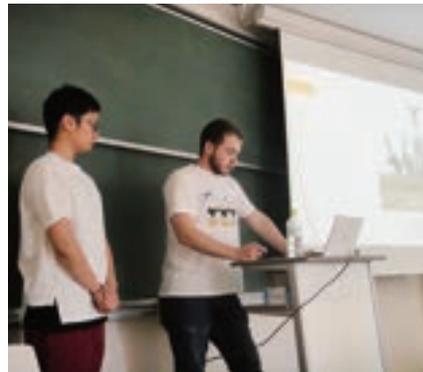
開催日時：2018年5月25日(金) 16:30～17:40

講師：アレクス クワハ（特別聴講学生）

ユリアン アンドレアス リング（特別聴講学生）

参加者数：22名

内容：ドイツのルートヴィヒスハーフェン経済大学から本学に留学しているアレクスさんとユリアンさんに、母国ドイツについて紹介してもらいました。ドイツの文化や教育システムについて語ってもらい、参加者たちは興味深い様子で聞き入っていました。



第2回

タイトル：聞いてみましょう!!～パキスタンの魅力～

開催日時：2018年6月21日(木) 16:30～18:00

講師：イムラン アリ（経済学部 国際商学科1年）

参加者数：19名

内容：パキスタン出身のイムラン アリさんに、母国パキスタンについて話してもらいました。宗教や教育、文化について、わかりやすく説明してもらいました。



第3回

タイトル：韓国イベント事情(クリスマスやバレンタインデーなど)

みんなで聞いてみませんか?

開催日時：2018年12月19日(水) 16:30～17:45

講師：李 漢蔚 (特別聴講学生)

参加者数：18名

内容：韓国の木浦大学から本学に留学している李 漢蔚さんに韓国のイベント事情について日本と比較しながら紹介してもらいました。参加者からは韓国の伝統的な文化から韓国の大学生の様子までを知ることができ、韓国への興味がより一層湧いたという声が聞かれました。



第4回

タイトル：中国茶で知る中国

開催日時：2019年1月22日(火) 16:40～18:30

講師：馬 叢慧 (本学特任教員)

宋 馨華 (本学特任教員)

参加者数：15名

内容：本学特任教員の馬 叢慧先生と宋 馨華先生に中国茶をテーマに話してもらいました。中国茶の歴史や種類の解説の後、実際に中国茶の試飲も行いました。お茶を通して中国文化に触れる貴重な時間になりました。



下関市立大学弁論大会

下関市立大学では、毎年日本語、中国語および朝鮮語のスピーチコンテストを開催しています。いずれのスピーチコンテストも幅広く門戸を開き、初心者から上級者までどなたでも参加できます。学内外の中学生から成人まで、多くの方々に参加していただいています。

1. 第6回日本語スピーチコンテスト

開催日時：2018年11月1日（木）9：00～13：00

開催場所：A-101教室（A講義棟1階）

出場人数：13名

入賞者：

最優秀賞 1名 辺 海納（下関市立大学 特別聴講学生）

優秀賞 2名 イムラン アリ（下関市立大学1年）

王 倶揚（下関市立大学 特別聴講学生）

国際交流委員会賞 10名



2. 第10回中国語スピーチコンテスト

開催日時：2018年11月29日（木）13：10～16：00

開催場所：I-206教室（本館I棟2階）

出場人数：32名

入賞者：

最優秀賞 3名（各部門1名）

弁論の部 山西 あみ（下関市立大学3年）

暗誦の部 坂本 笙花（下関市立大学2年）

朗読の部 櫻木 ひさの（山口県立大学1年）



優秀賞 5名 (各部門2名)

- 弁論の部 篠本 丞晟 (下関市立大学3年)
暗誦の部 坂本 裕佳 (下関市立大学2年)
 神田橋 未玖 (九州産業大学3年)
朗読の部 前山 郁那 (下関市立大学1年)
 柴田 唯花 (梅光学院大学1年)

国際交流委員会賞 24名



3. 第14回コリアンスピーチコンテスト

開催日時：2018年12月12日 (水) 13:10~16:00

開催場所：I-206教室 (本館I棟2階)

出場人数：28名

入賞者：

最優秀賞 3名 (各部門1名)

- 弁論の部 加悦 優莉 (下関市立大学2年)
暗誦の部 寺田 彩乃 (梅光学院大学1年)
朗読の部 西大舛 里音 (梅光学院大学1年)

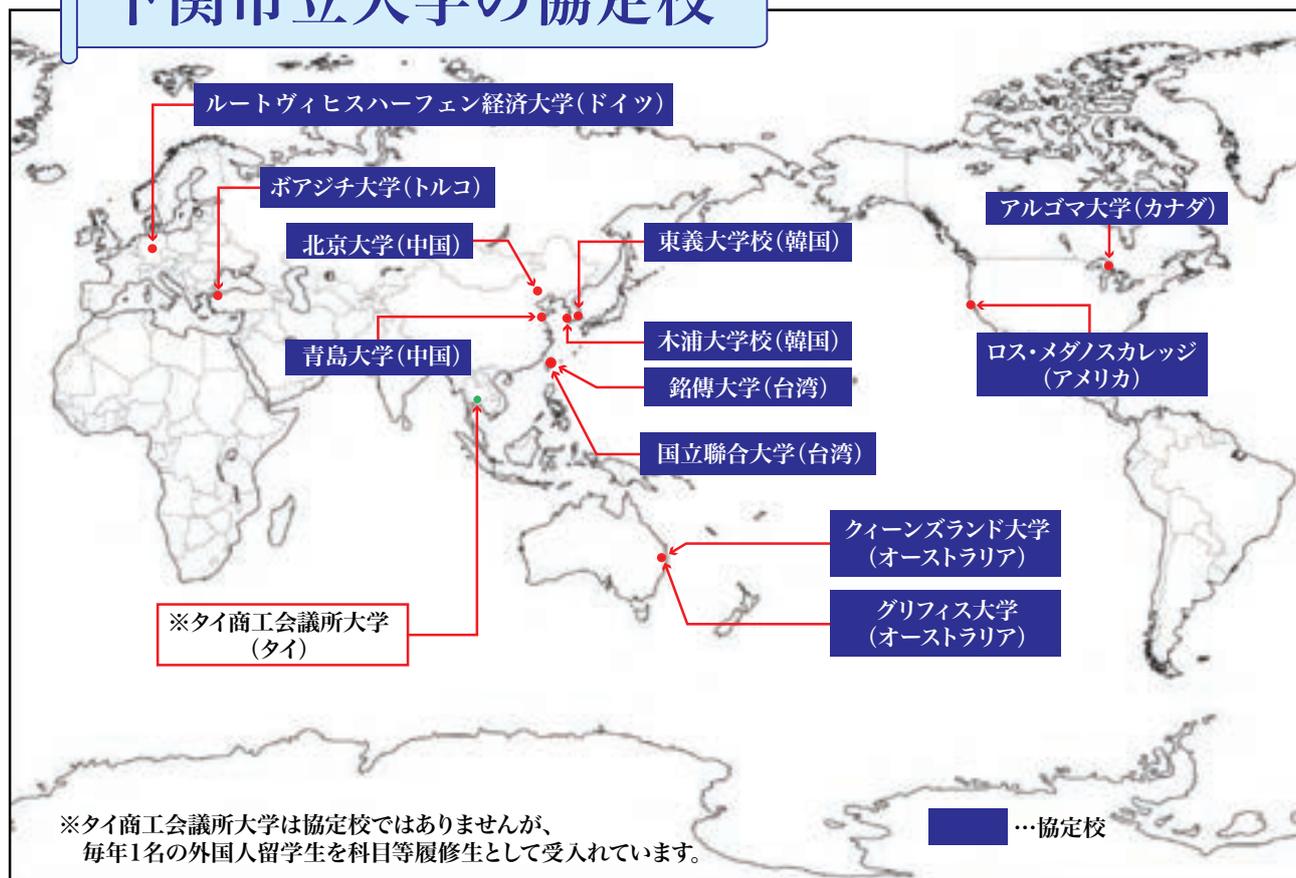
優秀賞 6名 (各部門2名)

- 弁論の部 伊藤 さゆき (下関市立大学1年)
 山本 さくら (下関市立大学3年)
暗誦の部 岡藤 愛佳 (山口県立響高等学校3年)
 北川 歩夢 (山口県立下関中等教育学校5年 (高校2年))
朗読の部 川端 夏歩 (梅光学院大学1年)
 吉田 美穂 (下関市立大学1年)

国際交流委員会賞 19名



下関市立大学の協定校



下関市立大学には、3つの理念と目的があります。その中の一つに「東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育と研究」があります。下関市立大学では下関からアジア、さらには世界へと目を向けることで、現在の国際関係がどのような構造を持っているか、また、それがどのようにして作られてきたのかを理解できる教育を行っています。学生と教職員が一体となり、世界へ広がるネットワークを形成しています。

この理念に基づき、本学には世界各国に協定校があります。2019年3月現在、中国に2校、台湾に2校、韓国に2校、アメリカに1校、カナダに1校、トルコに1校、ドイツに1校、オーストラリアに2校の合計12校の協定校があります。これらの協定校との交流は、学術交流や学生間交流等様々ですが、相互に交流を深めています。

●派遣留学とは……

派遣留学とは、1学期間（1セメスター）～1年間、本学に在籍したまま海外の協定校に留学することです。留学期間は4年間の修業年限に含まれます。また、派遣先大学で修得した単位は、帰国後所定の手続きを経て本学の授業科目に単位認定されます。

授業料は、原則下関市立大学に納入することになりますが、派遣先大学に授業料を納付する場合もあります。その場合は所定の手続きを経て本学の授業料が免除されます。

なお、派遣留学申請をするためには、必要な資格や語学レベル等の条件があります。詳細については、国際交流センターへお問い合わせください。

募集期間や派遣人数、試験内容、必要資格等は次ページのとおりです。

1. 第Ⅰ期派遣学生

- (1) 募集期間 10月1日～11月20日
 (2) 派遣先協定校 表1参照
 (3) 選抜試験の時期 11月20日～12月5日（面接試験・筆記試験）
 (4) 派遣学生の決定 12月第4週

表1

国名	中国		台湾	アメリカ	トルコ	ドイツ	カナダ
大学名	北京大学	青島大学	銘傳大学	ロスメダノス・カレッジ (LMC)	ボアジチ大学	ルートヴィヒス・ハーフェン経済大学 (LUAS)	アルゴマ大学
派遣期間	9月～翌年8月			8月～翌年7月	9月～翌年8月	9月～翌年8月	5月～翌年3月 9月～翌年8月
	1学期間（1 Semester）のみの申請も可能ですが、1年間を希望する学生が優先になります。						
募集人数	2名程度	5名以内	3名以内	4名以内	2名以内	2名以内	4名以内
選抜試験	筆記試験 面接試験			面接試験			
必要資格	中国語検定3級 HSK4級	中国語検定4級 HSK3級		TOEFLiBT 54点 IELTS 5.0点	TOEFLiBT 79点 IELTS 6.5点	TOEFLiBT 70点 TOEIC 650点 IELTS 5.5点	TOEFLiBT 79点 IELTS 6.0点
授業料納付先	北京大学 (本学の授業料免除)	下関市立大学		LMC (本学の授業料免除)	下関市立大学		アルゴマ大学 (本学の授業料免除)

2. 第Ⅱ期派遣学生

- (1) 募集期間 4月1日～5月20日
 (2) 派遣先協定校 表2参照
 (3) 選抜試験の時期 5月20日～6月5日（面接試験・筆記試験）
 (4) 派遣学生の決定 6月第4週

表2

国名	韓国		オーストラリア	
大学名	東義大学校	木浦大学校	クィーンズランド大学	グリフィス大学
派遣期間	3月～翌年2月		2月～翌年1月	
	1学期間（1 Semester）のみの申請も可能ですが、1年間を希望する学生が優先になります。			
募集人数	2名程度	2名程度	2名程度	2名程度
選抜試験	筆記試験 面接試験		面接試験	
必要資格	無し		TOEFLiBT 76点 IELTS 6.0点	TOEFLiBT 71点 IELTS 6.0点
授業料納付先	下関市立大学		下関市立大学	グリフィス大学 (本学の授業料免除)

●外国研修とは……

夏季休業中に2～5週間、海外の協定校など行うで語学研修のことを外国研修といいます。外国研修では、語学の研修だけでなく、様々な文化体験や交流行事がプログラムされています。

「外国研修（英語、中国語、朝鮮語）」は、正規の授業科目で、秋学期に国際コミュニケーションの単位（2単位）として認定されます。

1. 過去3年間の記録

言語	2016年			2017年			2018年		
	受入れ機関	国名	参加人数	受入れ機関	国名	参加人数	受入れ機関	国名	参加人数
英語	Rose of York	イギリス	24名	ICTE-UQ	オーストラリア	26名	VIEC Education Canada Ltd	カナダ	13名
中国語	銘傳大学	台湾	24名	青島大学	中国	29名	銘傳大学	台湾	30名
朝鮮語	東義大学校	韓国	12名	東義大学校	韓国	16名	東義大学校	韓国	13名
	合計	60名		合計	71名		合計	56名	

2. 2019年度の実施予定プログラム

言語	受入れ機関	国名	引率教員	期間
英語	ICTE-UQ	オーストラリア	クリステン サリバン	5週間
中国語	青島大学	中国	馬 叢慧	2週間
朝鮮語	東義大学校	韓国	呉 香善	2週間

●国際インターンシップとは……

国際インターンシップは、海外における企業の現場で働く体験をすることにより、自ら考え学ぶ意識を持つことを目標に実施しています。

事前学習4.5時間（事前講義）、夏季休暇中の就業体験（計40時間以上）、そして報告書の作成・提出、報告会での発表などの事後学習（4時間）を経て、総合的に評価され秋学期に単位認定されます。

●私費留学とは……

本学を休学して、海外の大学などに私費で留学をします。（単位認定を目的とした私費留学の制度もあります。） また、夏季休暇中などを利用して協定校付属の語学学校などで、語学を修得することもできます。

留学のための経費支援

外国人留学生や日本人留学生のための奨学金や減免などの経済支援があります。

奨学金

海外留学支援制度（短期派遣・短期受入れ）（対象：日本人学生および外国人留学生）

協定校へ派遣留学する本学学生および協定校から本学に受け入れる留学生を対象とした、返還の義務のない給付型奨学金です。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）から支給され、月額甲地域80,000円、乙地域70,000円、丙地域60,000円（2018年度実績）です。3ヶ月以上1年未満の留学期間に応じて支給されます。本学における協定校別受給者数は以下のとおりです。

海外留学支援制度(給付型奨学金)受給者数一覧表

〈単位：人〉

国名 (区分)	受入/ 派遣大学	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
		受入	派遣								
中国 (丙)	北京大学		1								
	青島大学			5	1	5	1	5		5	2
台湾 (丙)	銘傳大学					2		2	2	1	
韓国 (乙)	東義大学校	2	1	2			2	2	1	2	2
	木浦大学校		2		2	2	1	2	1	2	2
アメリカ (甲)	ロスメダノス ・カレッジ		2		3						
カナダ (甲)	アルゴマ大学										
トルコ (甲)	ボアジチ大学		1		1				1		
ドイツ (甲)	ルートヴィヒス ハーフェン経済大学		2	1	1	2		2	1	1	1
オーストラリア (乙)	クィーンズランド 大学		2		1		1		1		3
	グリフィス大学		2								

第二種奨学金（短期留学）（対象：日本人学生）

協定校へ派遣留学する本学学生を対象とした、返還の義務のある貸与型奨学金です。日本学生支援機構に所定の手続きを行うことで、派遣先大学への派遣留学期間に奨学金の貸与を受けることが可能です。

貸与金額は以下のとおりです。

30,000円（学部生のみ）、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円、150,000円（大学院生のみ）から選択できます。

下関東ロータリークラブ奨学金（対象：日本人学生）

下関東ロータリークラブが、英語圏に留学する日本人学生を対象に月額50,000円の奨学金を支給しています。

外国政府等奨学金（対象：日本人学生）

外国政府および外国政府関係団体等が、その国や地域の大学等へ留学する日本人を対象に奨学金を支給しています。募集中の奨学金については学内の掲示板に随時掲示しています。

文部科学省外国人留学生学習奨励費（対象：外国人留学生）

我が国の大学等に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ、経済的理由により修学に困難があり、かつ、次の①から⑥の条件を満たす者に、奨学金を1年間給付するものです。

- ①日本学生支援機構が定めた算出方法で求められる前年度の成績評価係数が、大学院レベル2.30以上、学部レベル2.30以上であり、受給期間中においてもそれを維持する見込みのある者。
- ②学習奨励費受給後に、機構が在籍大学を通じて行う進路状況調査に協力する意思を有する者であること。
- ③仕送りが平均月額90,000円以下であること（入学金・授業料等は含まない）。
- ④学習奨励費との併給を制限されている奨学金等の給付を受けている者ではないこと。
- ⑤在日している扶養者の年収が500万円未満であること。
- ⑥機構の海外留学支援制度による支援を受けている者ではないこと。

2018年度は大学院・学部とも月額48,000円が給付されました。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者数一覧表

〈単位：人〉

	所属	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
		応募者	受給者								
4月採用	学部	10	4	13	2	5	1	7	1	9	1
	大学院	4	3	2	2	2	2	1	1	2	1
10月採用	学部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	大学院	-	-	4	1	5	1	2	1	-	-
合計		14	7	19	5	12	4	10	3	11	2

下関市留学生住居費助成金（対象：外国人留学生）

他団体から住居費等の支援を受けていない私費外国人留学生で、下関市内に居住し、学業が優秀な者に対して、下関市から実際に負担した月額住居費の2分の1の金額(上限10,000円)が支給されます。

下関市住居費助成金受給者数一覧表

〈単位：人〉

所 属	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	応募者	受給者								
学 部	9	9	18	8	16	9	21	8	10	7
大学院	1	1	4	2	3	0	2	0	0	0
合 計	10	10	22	10	19	9	23	8	10	7

公益財団法人ロータリー米山記念奨学金（対象：外国人留学生）

採用年度に学部3・4年生あるいは大学院に在籍している（在籍予定者を含む）外国人留学生で、日本以外の国籍および在留資格「留学」を有し日本に在留している者を対象に、学部留学生月額100,000円、大学院留学生月額140,000円が給付される奨学金制度です。学業、人物ともに優れた45歳未満の者が対象です。受給期間は最長2年間ですが、他の奨学金との併給はできません。

公益財団法人平和中島財団奨学金（対象：外国人留学生）

採用年度に正規課程に在籍している（在籍予定者を含む）私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れており、月額30,000円を超える他の奨学金を受給していない者に対して、月額100,000円が給付されます。受給期間は1年間です。

公益財団法人朝鮮奨学会 大学・大学院奨学生 (対象：外国人留学生)

採用年度に正規課程に在籍している韓国人・朝鮮人学生のうち、成績が優良で学費の支弁が困難な者で、当奨学金と同額以上の給与奨学金を受給していない者に対して、学部生月額25,000円、大学院生月額40,000円が給付されます。受給期間は1年間ですが、継続生として応募することで2年間の受給も可能です。

各種奨学金受給者数一覧表

〈単位：人〉

奨学金名	所属	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
		応募者	受給者								
公益財団法人ロータリー米山記念奨学金	学部	1	0	1	0	1	1	-	1	-	-
	大学院	3	1	3	0	3	0	-	-	-	-
公益財団法人平和中島財団奨学金	学部	3	0	1	0	0	0	1	1	1	0
	大学院	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
公益財団法人朝鮮奨学会奨学金	学部	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

国費外国人留学生制度 (対象：外国人留学生)

採用年度の4月1日現在において、大学院の修士課程に正規生として在籍する私費外国人留学生で、学業成績が優秀な学生（年齢制限あり）に対して、研究留学生（大学院生）月額144,000円が文部科学省より給付されます。本学では、1995年度に1名の受給実績がありますが、それ以降の受給者はいません。

授業料・入学金減免制度

学部および大学院に在籍する私費外国人留学生が対象の制度です。私費外国人留学生が属する世帯の総所得金額が別に定める基準額以下の学生で、学業成績が良好で最短在学期間で卒業または修了できる見込みがある場合には、授業料および入学金の額の2分の1に相当する額が減免される制度です。

授業料・入学金減免実施状況

〈単位：人〉

	学期	所属	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
			申請者	減免決定者								
授業料減免	前期	学部	51	49	44	42	43	42	34	34	32	31
		大学院	6	6	7	7	7	7	6	6	5	5
	後期	学部	50	50	45	44	42	42	35	34	34	34
		大学院	6	6	7	7	7	7	6	6	5	5
入学金減免	学部	10	10	9	7	7	7	6	6	8	5	
	大学院	2	2	4	4	3	3	1	1	2	2	

特待生

学力が優秀であると認められる学部学生を特待生として認定する制度があります。特待生の人数は学部留学生全員から2名、期間は1年間です。

特待生の認定は、前年度の成績に基づき行われます。ただし、入学後4年を超えて在学している留学生や懲戒を受けている留学生は対象外となります。

特待生となった留学生は、認定された期間の授業料の2分の1に相当する額が免除されます。

留学（受入れ）

外国人留学生サポート

留学生チューター制度

本学に在籍する外国人留学生や特別聴講学生（交換留学生）および科目等履修生のために学修や生活の支援を行う留学生チューター制度があります。留学生チューターは、原則として2年次以上の学生（大学院2年生を含む）の中から学長が委嘱します。サポート期間は入学後1年間です。

留学生チューターは、原則留学生1人に対して1名が委嘱され、学修面だけでなく生活面のサポートも行います。下関市内探検・防災ツアーなど留学生と留学生チューターの交流を深める行事もあります。

また、月に1度開催される留学生チューター会では、必要なサポート指導や連絡事項の伝達のほか、留学生チューター同士の意見交換会などの交流も行います。

外国人留学生との面談

1年に1回、下関市立大学国際交流委員による学部および大学院留学生の個別面談を実施しています。

この面談では、これまでの学習や健康状態、アルバイトの状況、今後の履修や生活の計画、卒業後の進路相談、そして大学への要望等の聞き取りを行っています。留学生活における問題点をより早く解決し、相談や助言を通して教職員と留学生の交流を深めることができます。

留学生のための学内行事

下関市内探検・防災体験ツアー（4月・9月）

環境みらい館見学・紙すき体験（4月・9月）

留学生歓迎会（4月）

留学生の面談（4～5月）

日本文化の神髄を知ろう！！（7月・11月）



花柳流日本舞踊教室への参加

SCU国際交流会館1階で、花柳流師範の花柳英佳和先生による日本舞踊教室が毎週2回開講されています。受講料は無料で、日本人学生も参加できます。

稽古（練習）の成果は、7月の「世界の厨房から（国際交流会ともだち主催）」や10月の大学祭で披露します。

外国人留学生と地域住民の交流

外国人留学生は、様々な形で市民との交流を図り、今や「小さな国際都市・下関」にとって、なくてはならない存在です。外国人留学生の活動は、交流学习への派遣、地域の各種イベント等への参加、ボランティア活動への参加などがあります。

(1) 交流学习への留学生の派遣

国際理解教育に取り組んでいる地域の小・中・高等学校の児童や生徒と触れ合うことにより、留学生の文化や生活習慣などの紹介をしています。また、要請があれば国際交流や理解に関心のある幼稚園等への派遣にも対応しています。

- ・名陵校区地域こども教室 年6回程度
- ・社会福祉法人三明会豊北きらきらこども園（毎月）

(2) 地域の各種イベント・ボランティア等への参加について

外国人留学生は地域での各種イベントに積極的に参加していますが、定期的に参加しているイベントは以下のとおりです。

- ・花見例会（5月）－下関中央ロータリークラブ－
- ・酒造祭り（4月・10月）－下関酒造－
- ・下関市内在住留学生交流会（5月）－下関ロータリークラブ－
- ・下関塾（6月）－下関市－
- ・関門女子旅まちあるき（6月）－関門海峡観光推進協議会－
- ・朝鮮通信使行列参加・通訳ボランティア（8月）－下関市市民文化課企画－
- ・日中友好バスツアー（10月）－下関日中友好協会主催 梅光学院大学・下関市立大学共同開催－
- ・滞日体験発表会（11月）－下関日中友好協会主催－
- ・日中友好交誼会（11月）－下関日中友好協会主催－
- ・クリスマスパーティ（12月）－下関ユネスコ協会主催－

その他にもたくさんのイベントに参加しています。



留学感想

氏名：牛 佳恵 (特別聴講学生)
出身大学：青島大学 (中国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



私は留学生として選ばれたとき、これまでインターネットで見た日本を、やっと体感できると、非常に期待しました。

日本で一年間生活した今は、日常生活のいろいろな面から日本や日本人をもっと理解できるようになりました。日本人は人と付き合う時、礼儀を重視し、お互いに一定の距離をもっていることに気づきました。

今学期、私は日本舞踊のサークルに入りました。日本人の自分の伝統文化への尊重は思ったより強いのです。若者たちも真面目に自分の国の伝統文化を勉強し、熱意ももっています。このサークルでたくさんの友達ができました。

もっと驚くのは日本のおじいさんとおばあさんの心意気です。交流し友達になった日本人の平均年齢は60歳以上かもしれません。月に一回中国語の勉強会に行き、おじいさんに中国語を教えます。その中の一人は76歳ですが、毎日人生を無駄にしないようになっています。中国語の勉強だけでなく、水泳、撮影、マジックなどもしています。「若いとき一番後悔したことは何でしょう」と聞いたら、「教師もやったし、運転士もやった。スペイン語も勉強したし、外国にも旅行した。…後悔することはないね。」と答えました。自分の人生を生き、自分の人生に責任を持つのは大切だと思いました。

この一年間楽しく過ごして、先生と新しい友達存在をありがたいと感じます。「白駒の隙過ぎるが如し」、また日本に来たいと思っています。

日本の思い出

氏名：許 金子 (特別聴講学生)
出身大学：青島大学 (中国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



この一年間みんなと一緒に紅葉狩りに行ったりバスツアーに参加したりして、ステキな思い出がたくさんできました。

全てを日本語で行う授業は初めてで、最初は不安でしたが、先生方のやさしい解説のおかげで不安は解消されました。留学生はクラスに私一人という授業もありましたが、先生は留学生のことも考えて授業を行ってくれました。心から感謝しています。

日本文化に触れる色々なイベントがあり、日本文化を知るだけでなく、自分の国の文化の特徴を再確認することもできました。異文化を体験する中で、語学力はどんどん向上していったように感じます。酒蔵見学に参加して、下関酒造株式会社で日本酒の文化体験をしました。日本酒には長い歴史があり、はるか昔から日本では米を原料にお酒を造っていたことがわかりました。「世界の厨房から」では、いろいろな国の食べ物を食べ、その土地で暮らしている人たちの生活などを知ることができました。いくつかの「食」に関するイベントを通して、異文化への理解を深めることができ良かったと思います。

この一年間、授業でもアルバイトでも、日本について教えてもらい、「では中国ではどうですか」と聞かれました。答えられないこともよくあり、国の事情を知ることの大切さがわかりました。自国について知らなければ異文化交流はできません。留学のおかげで、日本だけではなく中国の文化ももっと知りたくなりました。

これまでのかけがえのない経験を忘れずに、日本語の勉強だけでなくいろいろな文化に触れ、広い視野を持てるように努力していきたいと思っています。

一年間の思い出

氏名：全 美思 (特別聴講学生)
出身大学：青島大学 (中国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



日本に来て一年が経ちました。日本に来たばかりの時はいろいろと困りました。いつも早起きをしてごみを出さなければならぬし、ほとんど料理を作ったことがなかったので、まずい思いながら自分の料理を食べました。でもこれらは全部いい思い出です。ごみを出す前日にいつも友達と明日一緒にごみを出そうと約束し、誰かがおいしい料理を作ったら一緒に食べようとしてくれました。友達のおかげで、日本の生活にすぐ慣れることができました。

この一年間は日本舞踊など、いろいろな文化体験をしました。最初は上手にできるか心配でしたが、先生たちの熱心なご指導のおかげで、すぐに覚えることができました。先生たちは踊りだけではなく、日本舞踊の流派や着物の着方などについても教えてくれました。最後の舞台上に立った時はとても緊張しましたが、「これが最後だ」と思ったら悲しくなりました。日本舞踊を通じて、日本の文化を知ることができ、本当によかったと思います。

いろいろな交流活動にも参加し、一番印象深いのは豊北きらきら子ども園に行っただけです。子供と一緒に遊んだり、食事の手伝いをしたりしてとても楽しかったです。帰ろうとしたときに、子供たちが「行かないで」と言い、別れるのが寂しかったです。後ろ髪を引かれる思いでした。機会があればまた行きたいです。

日本に来てから、多くの方が留学生のことを考えて、支援していることに気づきました。そのおかげでいろいろなことを経験して、違う日本を見ることができました。そしていつも親切に教えてくださった先生方と手伝ってくれた友達にも感謝したいです。この一年間のことを一生心に刻んでおきたいと思っています。

留学生活の感想

氏名：張 雅琳 (特別聴講学生)
出身大学：青島大学 (中国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



時間が経つのは早いものです。9月から今まで体験したことはよく目に焼き付いています。先輩たちと広島市の平和公園に行ったとき、戦争で犠牲になった人々のために祈っていた人や原爆ドームを見たあと、戦争の恐ろしさを深く感じました。そして、熊本に行ったとき、地震で壊れた熊本城を見て、地震に遭ったことがない私はびっくりしたと同時に、自然災害の怖さを知りました。また、スカイツリーから見た東京は信じられないほどにぎやかで人も建物も多すぎます。あとは大阪や福岡や沖縄など、いろいろなところに行きました。

旅行以外では、文化体験のイベントに参加しました。バスツアーや発表会、餃子パーティーや酒造見学など、イベントを通じて日本文化をもっと理解するようになりました。知れば知るほど知りたいことが多くなりました。

寮生活が一番楽しかったです。中国の大学では6人部屋に住んでいたのですが、自分の部屋があるのがうれしかったです。時々一階の会議室や誰かの部屋に集まって、友達と一緒にご飯を食べたり、喋ったりする時間が何より楽しかったです。

また、おじいさんたちの中国語勉強会で中国語を教えたり、日本のことを聞いたりすることも最高の思い出です。70歳になっても勉強したいという気持ちに感心させられました。

今、考えてみると、本当に最高の時間を過ごしました。アルバイトも授業も旅行もイベントも私にとって大切な宝物です。先生たちやここに来て作った友達や、おじいさんや助けてくれた人たちへの感謝の気持ちで溢れています。一生忘れられません。この一年間の留学生活は私の人生の輝く一ページになると思います。

日本の思い出

氏名：鄭 新蕾（特別聴講学生）
出身大学：青島大学(中国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



日本で学んだことの中で大事なことが二つあります。まず知識です。他の留学生との会話を通じて、新しい考え方や文化に触れることができました。授業の方式も多彩で、先生と学生の間の距離を近く感じました。最初、日本語を話す時、間違いだらけで、言いたいことを伝えられず苦しかったです。しかし、先生はいつも励ましてくれ、一緒に学ぶ留学生たちは優しくしてくれました。本当に感謝しています。そして、アルバイト先のマスターと奥さんに色々な話をする中で、日本についても深く理解しました。日本語も毎日少しずつ上達していると感じました。授業のない日は、主に観光をして、多くの場所を回りました。下関市内も他の有名な観光地も、当地の文化を感じることができ、いい勉強になりました。友達と一緒に遊びに行くのも貴重な体験になりました。

次に礼儀です。先生は授業中、習慣やマナーについても教えてくれました。笑顔で相手の目を見ながら挨拶することや、いつも謙虚な態度で話し合うことなど、それらは知識よりずっと大事だと思いました。アルバイトをしてから、礼儀の重要性が分かりました。ただ普通の「ありがとうございます」でも、自分も周りの人たちも、気持ちが変わります。昔の私は礼儀に対して無頓着でしたが、これからは自分の言行に注意して、礼儀正しい人になれるように頑張ります。

たった一年でしたが、とても充実していました。先生方、先輩方に助けてもらって、本当に感謝しています。今後も油断をしないで頑張りたいです。中国では経験したことが無いことをたくさんできて良かったです。これからの人生に活かしていきたいです。

一年間の思い出

氏名：黃 杰琳（特別聴講学生）
出身大学：銘傳大学(台湾)
留学期間：2017年9月～2018年8月



2017年9月13日、日本に来ました。迎えに来てくださった秋山先生は優しく、外国での一人暮らしの緊張がすくなくなりました。

日本に来てから、色々なイベントに参加しました。ボランティアとして、豊北さらさらこども園で子供たちと交流しました。子供たちがすごく元気で、一緒に遊び楽しかったです。留学生の友達と祭りでお神輿を担ぎました。お神輿が重くて、肩が痛かったのですが、本当にいい経験でしたから、この重さを胸に飾って台湾に持って帰ろうと思っています。火の山公園にボランティアでチューリップの植え付けに行きました。来年、自分の植えたチューリップが咲くことを楽しみにしています。日本と台湾のロータリークラブの交流会で通訳をしました。自信がなかったですが、先生たちからアドバイスをもらって順調に済みました。台湾の友達と一緒に大学主催の「日本にいながら世界を知ろう!!」というイベントに出ました。発表者として、台湾の文化などを紹介しました。冬休みには餃子パーティーに参加しました。留学生や日本人と一緒に餃子を作って食べ、伝統的なゲームで遊んだりして楽しかったです。

春休みに福岡、大阪、奈良、神戸、京都、北海道に旅行しました。奈良の鹿がかわいかったです。鹿に噛まれて、びっくりしました。神戸では神戸牛を食べすぎて美味しかったです。銘傳大学に留学していた日本人の友達に会いに、北海道に行きました。台湾はほとんど雪が降らないので、感動しました。

先生達と下関で出会った人達はみんな優しくしてくれました。機会があれば、下関に再び来るつもりです。

日本での思い出

氏名：楊 鑿鑿（特別聴講学生）
出身大学：銘傳大学(台湾)
留学期間：2017年9月～2018年8月



最初下関に来た時は、台湾での生活と全く違い、大変苦労しましたが、下関は空気と夜空が綺麗で、四季の変化がはっきり感じられた。春は桜花爛漫で、夏は虫が出て暑い、風が吹いて気持ちがいい。秋は涼しくて、冬は雪が降る。これらは台湾では経験できないので、充分満喫した。今思い出すと、辛かったことや楽しかったことは全て懐かしい。

市大でたくさんの人に会った。先生方や学生たちはみんな優しく、楽しい留学生生活を過ごせた。日本語の授業以外に、英語の授業も取った。英語の課題のため、ほぼ毎日英語を勉強した時期があり、疲れたがとても充実していた。アルバイトでは学生以外の人に会えるのが楽しく、大変貴重な経験をさせてもらった。

また、私は日本のアニメや2.5次元舞台がすごく好きなので、日本にいる間に自分の趣味を極めるため、いろいろな所に行った。せっかく日本に来たのだから、絶対このチャンスを逃すまいと、好きな俳優さんに会いにいたり、イベントに参加したりした。一時帰国した時、台湾での手続きや移動などが全て複雑で、家から出ることさえも面倒だった。だから、日本では「夢女子」のように過ごしていたこともいい思い出だ。すごく満足だった。

スマートフォンのアルバムには、ふくのイラストがあるマンホールの蓋や長府庭園の紅葉の風景、海響館の生物などの写真がある。それから、日本各地に旅行に行った写真もある。写真は全部宝物にして、帰国した後何度も見て、楽しかった留学生生活を噛み締めることができる。この一年間、本当にたくさんのいい思い出ができた。留学経験は私の人生の数ページになって、次の章に進むために、何ものにも変え難い宝物になった。

感想文

氏名：アレクス クワハ（特別聴講学生）
出身大学：ルートヴィヒスハーフェン経済大学(ドイツ)
留学期間：2017年9月～2018年8月



この留学をずっと楽しみにしていた。日本に来る前は「日本の大学生活はどうだろうか」と考えていた。それに関して、ドイツの大学でも調べていたが、実際には思っていたより楽しかった。例えば、先生や友達、軽音部の部員、皆がすごく優しく、困ったときや、何か知りたいことがあるとき、皆が手伝ってくれた。

交換留学生の友達と一緒にした経験を、僕は簡単に思い出せる！皆と一緒に飲み会をした時、いつもとても楽しかった。日本人の友達もよく僕たちの飲み会に来たので、留学生たちとすぐに仲良くなった。それは本当にオーセンティックな経験だった。日本人がどのようにリラックスするか、どのように友達をつくるのかも知ることができた。

友達との関係だけでなく、日本の現在についてもたくさん学べた。やはり、ドイツと日本の文化を比べたら、違いがたくさんあると気が付いた。日本の社会の行動から皆の話す方で、本当に魅惑的なことに感じられた。例えば、知っている人と深刻な問題が起これば、日本人はよくその人との関係を守るために、直接的なことを言わない！平和がやはり一番だ。それは、ドイツ人がもっと注意を払ったほうがいいポイントの一つだ！

友達と先生達のおかげで、大切な経験ができたことがすごく嬉しい。大変お世話になった。ここでした経験を絶対大事にしないといけないと思う！

「さようなら」と言わないといけないのは少し苦しいけど、皆といつかまた会うことを願っている。

僕の留学体験

氏 名：ユリアン アンドレアス リング (特別聴講学生)
出身 大学：ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (ドイツ)
留 学 期 間：2017年9月～2018年8月



この一年間はとて有意義なものになりました。下関に来る前は、正直に言うと日本の大学に留学が出来るなら、どこでもいいと思っていました。しかし、先輩から下関市立大学で一番成長できると聞いたので、この大学を選びました。実際に留学を終えてみると、この選択は正しかったなと感じています。

他大学では、英語の授業が開講されていたり、留学生のみのクラスがあったりする中、僕の留学した下関市立大学ではほとんど全部日本語での授業でした。最初は授業についていくのに必死で、特に前期は課題もたくさんあったので、本当に忙しい毎日でした。しかし、日本語力の向上や、日本人学生が話しかけてきてくれ、得るものがたくさんあったので、頑張ってたかったなと思います。

日本語実習のクラスでは、プレゼンやスピーチをしたり、課外授業で紅葉狩りや海響館に行ったりしました。中華系の留学生は、漢字が得意だったり、日本語がすでにとても上手な人もいたりしたので、僕にとっては少し難しかったこともありましたが、でも、日本語の重田先生はいつも気にかけてくれて、授業後に手伝ってくれたりもしました。

最初下関に来た時は、「田舎で何もないな」と嘆いていましたが、今では下関が大好きです。道端で声をかけてくれる人がいたし、ちらし寿司をくれたおばあさんもいました。都会では経験することのないだろう、人の温かさに触れました。僕も田舎出身で、人の距離が近いところで育ったので、安心しました。留学が終わってしまうのは寂しいですが、また日本に来た際には、必ず戻ってきたいなと思います。

夢のような一年間

氏 名：林 鐘恩(特別聴講学生)
出身 大学：東義大学校(韓国)
留 学 期 間：2018年4月～2019年2月



留学する前は留学がこんなに重要で楽しいことだとよく分からなかったが、実際に経験してみたら勉強以外にも学べることが多く、来てとても良かったと思う。そして毎日日本語で授業を受けていると、日本語の実力が付き、自信を持つことができた。日本で他の留学生と授業を受けながら、発表や作文を書く機会が多かったので、韓国にいた時よりはるかに日本語がうまくなり自信も持てるようになった。また、周りの全てが日本語なので会話も上手になった。そして日本で一人暮らしをしながら自分で様々なことができる能力を育てられ、日本の文化とシステムを理解できて良かった。しかも色々な国の友達と遊びながら各国の文化について知ることができ、楽しい時間を過ごしたのが良かった。また、様々なプログラム、国際交流イベント、短期アルバイトにも参加できて旅行にも行った。その中で特に印象深いのは、初めて着物を着て海峽祭りに参加したことと大学祭、東京旅行だ。この他にも全てが韓国でできない貴重な楽しい経験だった。このようにたくさんの方の経験をしながら色々なところで成長できたと思う。そして留学する前はできないと思った多くのことに挑戦できて嬉しい。

そして私が留学生生活をうまく送れるように手伝ってくれた先生、友達に本当に感謝している。韓国に帰っても日本語の勉強に取り組み、さらに発展する私になるように努力したいと思う。夢のようで大事な1年だった。

大切な1年

氏 名：金 ダソム(特別聴講学生)
出身 大学：東義大学校(韓国)
留 学 期 間：2018年4月～2019年2月



初めての海外、初めての一人暮らし、初めての着物など初めてすぐめの1年だった。長いと思った1年はあまりにも短い。初めて日本に来た時は小さなことまで一つ一つが全部新しかった。それに下関が思ったより田舎で驚いたのも思い出す。日本で初めて食べたお弁当は今でも覚えている。よく知らない道を、地図を見ながら行って買って来たお弁当は全然口に合わなくて、この先の1年が心配になった。だけど、その時のお弁当がおいしくなかっただけで、今は食べ過ぎて心配になるほど慣れていく。田舎で人があまりいないのも、星がよく見えるのも好きだ。慣れなかった寮の部屋も今は慣れ、韓国にある私の部屋に戻ったら変に感じると思う。最初は部屋に虫が入ってくるのが怖くて、夜に電灯をつけられなかったのに今は結構慣れた。虫が出た時には同じ寮の友達が捕まえてくれた。

日本に来てたくさんの方に出会った。たくさんの方の助けももらった。いい人がとても多くて友達がたくさんできた。おかげで楽しい留学生生活を過ごすことができた。

韓国から日本に来る時よりも未練が残る。今まで楽しかった瞬間全部が過去になって二度と会うことのない人もいると思うととても悲しい。帰ったら下関の全てが恋しいと思う。

交換学生として日本に来たのは私の人生にとって本当に大きな出来事だ。今までの人生とこの先の人生を考える良い機会になったと思う。留学生生活の間に喜び、悲しみ、寂しさ、幸せ等の色々な感情を強く感じられた。このことは一生忘れられない。日本に来る前には来ることを迷ったが、来て本当に良かった。

私が習った日本

氏 名：曹 ヨセブ(特別聴講学生)
出身 大学：木浦大学校(韓国)
留 学 期 間：2017年9月～2018年8月



留学中は日本で教育を受けながら、自分の国と比較しながら、日本という国を知っていった。日本に来る前は心配が多かった。事前準備書類から難しい点が多かったので、留学に一度行くのがこんなに大変なのかという思いが恐怖感を作っていた。しかし、留学してきた先輩の助言で一生懸命やってみようという考えに変わった。心構えは、日本をただ知ることだけで満足しないということだった。もっと近くでもっと深く日本を知りたかった。韓国人にとって日本は心理的に複雑微妙な国だ。歴史的な葛藤があり、まだ癒えない傷もある。一方、現在は経済的な協力者であり、軍事同盟もある。歴史と現実のギャップが衝突していると思う。まだかなりの韓国人は日本について良くない感情を持っていると思う。しかし、私はそのような問題の解決のためにも、日本について学ばなくちゃいけないと考え、日本語専攻者として日本を研究しないというのは話にならないと思った。留学中、旅行や授業、様々な体験と人間関係を通じて、以前よりも日本について多くのことを知った。日本はいつも変化の中にながらも変化に流されない部分のある国だと感じた。

日本での留学生活はすべて終わったが、日本で学んだことを踏まえて、もっと研究して自国の発展に向けて取り組みたい。

1年間の思い出

氏名：韓 鎔熙 (特別聴講学生)
出身大学：木浦大学校(韓国)
留学期間：2017年9月～2018年8月



日本は僕にとって初めての海外でした。知人も無く、日本語もできず、最初は恥ずかしく自信がありませんでした。それでも優しい先生がいるから安心しました。

1年間留学して、学んだことは何なのか考えました。残念ですが、今も日本語は苦手ですが、日本人の生き方を見て、自分自身を振り返るきっかけになりました。

日本に来て、自分が本当に子供だと思いました。僕の周りの日本人の友達は、勉強よりもアルバイトを頑張っている感じでした。一日にアルバイトを3つする友達を見て驚きました。親から仕送りをもらっておらず、自分で働いて生活している姿に素敵だと思いました。

韓国は公企業とか大企業に就職したい人が多いです。しかし就職できる人は限られています。もちろん大企業に入りたい日本人もいるでしょうが、韓国のように重要だと考える人は少ないように思います。日本人は、普通の企業でも、いい家庭を作って幸せに暮らすことが重要であると考えているように思います。社会人の友達の家で、家族と一緒にたこ焼きを作って食べたことがありました。楽しくてこの暖かさは一人暮らしの僕にとって感じたことがないものでした。留学前、日本は寂しく暮らす人が多い国だと思っていましたが、そうではなかったです。その友人は荷物を運ぶ大変な仕事ですが、幸せな家庭を作って生活しているのが、羨ましかったです。日本人の生き方は、公企業、大企業に就職することだけが良いという僕の考えを変えてくれました。韓国も日本の考え方を参考にすると、もっと幸せな国になるんじゃないかと思えます。

僕は、本当に良い人と話をすると、自分自身を振り返って見るようになり、自分に足りないことが分かるようになりました。だから韓国に帰ってもっと頑張ろうと思いました。

日本語のできなかった僕を、支えてくれた日本の先生方に心から感謝しています。1年間の日本での生活は本当に意味があったと思います。

下関、ありがとう！

氏名：趙 超(科目等履修生)
出身国名：中国
留学期間：2018年4月～2019年2月



留学する前、すごく悩んでいました。日本で友達ができるか、生活に慣れるのかと。私はもう30歳で、7年も同じ仕事を続け、モノトーンな毎日を送っていたので、日本へ行って新たな自分を見つけたいと思い、来ることを決心しました。

去年の自分と比べて、私はだいぶ変わりました。毎日の新鮮な出来事と異国文化の面白さが、私の世界観を大きく変えてくれました。中国ではずっと忙しかったから、あまりこの世界を深く理解しようとしていませんでした。下関に来て、たくさんの友人が出来て、たくさんの文化に触れて、自分の心がもっと広くなった気がします。

大学でForeign studiesの授業を受講しましたが、毎週、人種差別、移民問題、男女平等、健康問題などについて激しく議論して、とても刺激を受けました。この授業を選んだ理由は英語能力の向上でしたが、やっているうちにだんだん授業の内容にはまり、ほかの人の価値観や、意見が一致しないときの「COMPROMISE」(妥協案)の重要性をすごく感じました。自分の心が狭く、変な自信を持っていましたが、今は少し自分に正直で、優しい人になった気がします。

生活面では、来る前の不安が嘘みたいに全くなって、たくさん友達ができました。一番大切な友達は、同じ山口銀行の支援を受けて留学しているトルコ人のMerveとタイ人のKimです。家族のように、楽しい時もつらい時もずっとそばにいました。2人と一緒に見た、夜空に舞い上がる蛍、夕日が沈む海、白い煙の出る火山、果てしない草原、すべてが私たちのかけがえない思い出です。帰国しても、何年何十年たって、ずっと友達でいたいです。

日本での経験を絶対無駄にせず、これからの人生に活かしたいと思います。下関での思い出は一生の宝物です。お世話になった人に、下関の町に、ありがとう！と言いたいです。

一年間の思い出

氏名：ユルドゥルム メルヴェ(科目等履修生)
出身大学：ポアジチ大学(トルコ)
留学期間：2018年4月～2019年2月



10ヶ月の留学について自分の気持ちを書いていると、下関での環境に慣れる方法について心配した時を思い出しました。光陰矢のごとしと言うのをよく耳にします。今の感情もその通りです。

私には、日本語を身につけたり、他の人々と仲良くしたりするのに、下関より良い場所はなかったです。大学で唯一のトルコ人であることは、私の話す能力を向上させるのに最大の利点でした。受講した授業のおかげで、日本の文化や言語について多くのことを学びました。

留学中、日本の自然の美しさを見る機会がありました。鹿児島以外の九州全域を旅行し、国際交流センターや大学の授業のイベントで、山口周辺を訪問することもできました。下関市に来たおかげで、珍しい観光地に行くことができたり、九州方面の様々な場所を観光したり、日本の自然の美しさを楽しみました。5月に長崎、佐賀と福岡に旅行して、観光客はあまり訪問しない場所まで行きました。日本文化の一つである花火大会は、下関で見るべきイベントでした。

夏休みの旅行中に、トルコのフットボールチームのユニフォームを着ているイギリス人の男子の子に出会い、とても驚きました。その後、関西地方を旅行し、言葉では表現できない京都の美しさ、活気にあふれている大阪、奈良の鹿も覚えておく価値がある経験でした。

しかし、私にとって京都よりも素敵な場所は熊本県にある阿蘇のふもとです。火山を見るのは初めてでしたし、その火山から吹き出した溶岩によってつくられた高千穂峡でボートに乗るのも初めてでした。この留学で、たくさんの友達をつくりましたが、母国語や英語を使うことはめったになかったです。だからこそ、語学の向上の面で下関が私にとって最良の選択だったのです。

下関市立大学に 留学しに来てください

氏名：タムストリー アナワット(科目等履修生)
出身大学：タイ商工会議所大学(タイ)
留学期間：2018年4月～2019年2月



下関市立大学で勉強できると知った時には、ワクワクしてどんな感じかと気になりました。大学に入ると、ビルがヨーロッパ風で広場があって麗らかで、大学の裏側は緑がいっぱいで真ん中から見れば美しい風景が見られます。大学の周りにはレストランとカフェがあります。大学内に体育館と屋外スポーツ場があって自由に利用できますから、素晴らしい環境の大学だと思います。

大学が始まると、国際交流センターの職員の方たちと先生方に履修登録など、たくさん助けてもらい安心しました。オリエンテーションに参加して日本での生活や町のことをもっと知ることができました。同時に友達がつくれて嬉しかったです。また、日本舞踊などの伝統的な体験をすることもありました。だんだん留学生活に慣れることができて幸せでした。

授業は日本語以外にも文学や心理などたくさんの科目が学べます。教授方も教科書の内容だけではなく、学生の要望を聞いて各自の能力に合わせて教えていただきました。

クラスメイトは日本人も外国人もいました。皆と話をして友達になりました。毎日の話を通じて交流し、国々の長短が分かって文化の違いも少しずつ理解してきました。皆は優しく思いやりがいっぱいでした。友達と一緒に学んだり遊んだりして、仲良くなれて楽しかったです。是非下関に来てください。

この4年間だけは決して忘れず

氏 名：王 振(学部留学生)
出身国名：中国
留学期間：2015年4月～2019年3月



もうじき長い日本での留学生活が終わりを迎えます。嬉しい気持ちとともに、懐かしい思い出で胸がいっぱいです。市大での4年間は本当にあつという間に過ぎて、入学式のことはまるで、昨日のようです。しかし、3月には卒業式が来るのです。振り返って見ると、日本に来てから今まで、充実した留学生活を過ごしたと胸を張って言えると思います。それは、日本文化や習慣の理解、また、様々な人と新しい学問との出会いによって、可能になりました。

市大に入る前には、勉強、サークル、恋愛など、いろいろな経験ができるのでは、と楽しみにすると同時に、正直、“友達ができるかな、授業についていけるかな”という不安で、いっぱいでした。最初は確かに日本語の不勉強で、授業にはなかなかついていけなかったり、内気で、なかなか友達もできなかったりしましたが、市大のみんなが親切に声をかけてくれて、友達がだんだん増えました。また、授業も留学生同士の交流、助け合いと日本人学生の協力で、少しずつ追いついたのです。このように、私が市大での留学生活で得られた一つの大事なことは友達の力です。4年間で多くの友達ができ、また、様々な国の人も出会えました。お互いに母国語ではなく、自分にとっての外国語である日本語を使って会話をしたので、時には誤解も生まれました。しかし、大事なことは結局みんな同じ人間であり、国と言葉は違っていても、心は通じることです。

そして、4年間で、サークル活動もたっぷり経験することができました。先輩からの推薦で、1年間、中国語しゃべっチャイナというサークルのリーダーを担当させて頂きました。人生初のリーダー役なので、私にとって、貴重な経験でした。毎年、私たちにとって、重要な行事、中国語スピーチコンテストと餃子パーティは当時、私の能力や経験不足で、焦ったりすることは何回もありましたが、国際交流センターの先生たちと部員の皆さまの協力で、うまくできたのです。チームが発揮する力と管理職の役目を実際に体験したので、後の就活でも面接のときのネタになり、かなり役に立ったのです。

また、わたしは結構運が良く、市大で自分の運命の人にも出会えました。2年生のときから3年間ずっと付き合っていて、彼女には本当にお世話になっています。市大での大学生活はこうした恋愛、サークル、勉強などで、本当に充実した4年でした。市大での4年間は本当にあつという間でした。私の成長を助けてくれた先生たち、友人、彼女に感謝しています。下関は、下関市立大学は、私の人生にとって、重要な場所です。これからも、この4年間だけは忘れずに、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

学生時代の終わり・新しい出発点

氏 名：蔡 爽然(経済学研究科)
出身国名：中国
留学期間：2017年4月～2019年3月



2017年の春に大学院に入学しました。二年間の大学院生生活を終え、今年の3月に、大学院の卒業を迎えます。

二年間はきっと長いと思っていました。しかし、学生時代の終点前に立った今、振り返ってみると二年前のことは昨日のように鮮明に思い浮かびます。

大学時代に一度日本に留学したことがあるとはいえ、下関は全く知らない町であり、大学院も全く初めてですので、不安もありました。同じ日本で留学するのでも、全く新しい体験でした。

最初に来た時は、観光客になった気分でした。入学シーズンの最中、お花見をし、大学一回生に戻ったような爽やかな気分です。2017年の春を送りました。5月最初に迎えたのは下関の代表的な行事——先帝祭でした。大学の呼びかけで参加することができました。振袖を着るのも、このような大きな行事に参加するのも初めてでしたので、心舞い上がりました。一緒に参加した他の大学の留学生と交流ができ、貴重な経験でした。何よりも有意義に感じたのは、下関の地にあったできごと、歴史を知ることができ、この町をより深く理解できたことでした。一気に親近感を感じました。

授業が始まってだんだん大学院生という実感がしました。経済経営は全く知らない分野でしたので、専門知識がゼロの状態から大学院の勉強が始まりました。科目は比較的少なかったが、講義の度に消化しきれない知識が多く、久しぶりに勉強する手ごたえを感じながら一生懸命できるだけ吸収しようと努力する毎日でした。難しいけれど、先生方が私のレベルに応じた教え方でゼロから丁寧に教えてくださいましたので、少しずつ新しい知識として吸収し、日々進歩している実感が持てるのが嬉しかったです。

院生二年目になって、ようやく修論に取り掛かりましたが、最初はうまくいなくて困っていました。一年の勉強で修士レベルの論文を書くということなので、正直無理があるとも思いました。しかし先生に助けをいただきつつ、書いていくうちに、論文の進捗状況もだんだん落ち着いていくようになりました。不安と焦りの多い時期もありましたが、先生方のおかげで無事克服できました。心から感謝しています。

大学院生としての留学生活は、18年間の学生生活の終点として盛大に楽しむことができました。その分、大変な経験でもありません。この4月から始まる新しい生活にも有用な経験になると信じています。この二年間は、学生としても大変有意義なものですし、人間としても転換期であり、成長における一つのマイルストーンになってくれた時期でした。

改めて、二年間お世話になった下関市立大学と先生方に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

派遣留学

協定校への派遣留学

北京大学（中国）

青島大学（中国）

銘傳大学（台湾）

東義大学校（韓国）

木浦大学校（韓国）

ロス・メダノス・カレッジ（アメリカ）

アルゴマ大学（カナダ）

ボアジチ大学（トルコ）

ルートヴィヒスハーフェン経済大学（ドイツ）

クイーンズランド大学（オーストラリア）

グリフィス大学（オーストラリア）



北京大学（中国・北京市）

概要

北京大学は1898年に創設された中国初めての国立総合大学です。現在は、多様な部門の教育と研究の中心になる新しいタイプの教育機関になっています。その前身は清朝末に設置された京師大学堂で、辛亥革命の翌年である1912年に北京大学と改称し、1952年に現在の敷地に校舎を移しました。以降今日に至るまで中国の最高学府としての地位を内外に誇っています。

北京大学は、社会主義の近代化を追求するために専門的な知識と技術、そしてレベルの高い人材育成と科学の重要なテーマについての研究を連携させています。この連携は教育と研究の向上だけでなく、様々な分野の促進と相互作用を追求しています。

1950年代に外国人留学生の受入れを開始し、中国語教育にも力を入れています。北京大学は、大学や研究機関、ハイテク企業が多く集まり、中国のシリコンバレーとも呼ばれる中関村に位置します。北京の名所の圓明園や映画「西太后」の舞台となった頤和園も周辺にあり、落ち着いた環境の中で学習することができます。



学生数 約30,000人

学部

理学部

数理科学学院、物理学院、化学分子工学院、ライフサイエンス学院、都市環境科学院、地球および宇宙科学院、心理・認知科学院、建築・景観設計学院、情報科学及び工学部、電子工学科コンピュータサイエンス学院、工学院、コンピューター科学技術研究所、環境理学院、ソフトウェア&マイクロエレクトロニクス学院、国立ソフトウェア工学研究センター

人文学部

中国語文学院、歴史学院、考古学院、哲学および宗教学院、外国語学院、芸術学院、第二言語として学ぶ中国語学院、歌劇研究協会

社会科学部

国際関係学院、法学院、情報管理学院、社会学院、政府管理学院、マルクス主義学院、大学院教育学研究学院、ジャーナリズム・コミュニケーション学院、体育教研学院、ニュースおよびメディア学院

経済管理学部

経済学院、光華経営学院、人口研究所、国家発展研究院、

医学部

基礎医学院、薬学院、公衆衛生学院、看護学院、医学人文科学研究所/基礎教育学部健康科学センター、継続医学教育学院、付属病院（8病院）

キャンパス

- 本部キャンパス 北京市海淀区頤和園路5号
- 海淀キャンパス 北京市海淀区学院路38号
- 昌平キャンパス 北京市昌平区十三陵鎮西山口村
- 大興キャンパス 北京市大興工業開発区金苑路24号
- 無錫キャンパス 江蘇省無錫市濱湖区大学城状元道5号
- 深圳キャンパス 広東省深圳市南山区西麗鎮水路2199号



Homepage : <http://english.pku.edu.cn/>

青島大学（中国・青島市）

沿革

青島大学の歴史を遡ると、二つの源に辿り着きます。

一つは1909年に創立された青島特別高等専門学堂です。歴史の変遷に従い、その医学教育が異色を放ち、青島医学校、青島医科大学、青島医学専門学校と校名が変わる時期がありました。

もう一つは1924年に創建された私立青島大学です。その後国立青島大学、国立山東大学と呼ばれる時期がありました。1946年、国立青島大学は青島医学専門学校と合併し、医学院を設置しました。1956年、医学院は山東大学から独立し、青島医学院となりました。1958年に山東大学は済南に移り、1985年青島大学は再度創立されました。

1950年に創立された青島紡織技術学校は青島紡織専門学校、山東省紡織工業学校などの時期を経て、1978年に山東紡織工学院と改名されました。

1951年に創立された青島教師研修学院は青島師範学校などの時期を経て、1981年に青島師範専門学校に改名されました。

1993年、青島大学、青島医学院、山東紡織工学院と青島師範専門学校の四校は合併して、今の青島大学となりました。



学生数 約46,000人（内 大学院生9,800人、留学生1,600人）

学院

理学 工学

材料科学と工程学院、電子情報学院、紡織服装学院、化学化工学院、環境科学と工程学院、機電工程学院、コンピュータサイエンステクノロジー学院、生命科学学院、データ科学とソフトウェア工程学院、数学と統計学院、物理科学学院、応用技術学院、自動化と電気工程学院

人文学 社会学

公共外国語教育学院、国際教育学院、法学院、経済学院、観光と地理科学学院、マルクス主義学院、美術学院、商学院、師範学院、教師教育学院、体育学院、文学院、外国語学院、マスメディア学院、音楽学院、哲学と歴史学院、政治と公共管理学院

医学

公共衛生学院、看護学院、基礎医学院、口腔医学院、薬学院、附属病院、附属心臓血管病医院



キャンパス

浮山キャンパス（本部キャンパス）

青島市寧夏路308号

金家嶺キャンパス（イーストキャンパス）

青島市嶗山区科大支路62号

松山キャンパス（ウェストキャンパス）

青島市北区登州路38号

Homepage : <http://english.qdu.edu.cn/>



留学で得たこと

所属：国際商学科
氏名：大石 朋佳

留学することが大学生活の夢でした。留学生活は思い描いていたものとは違い楽しいことよりも大変なことが多かったです。青島に着く前から、送迎連絡ミスのトラブルや授業が始まってからも経済系の専門科目が受講できないという問題が相次ぎました。市大の先生と青島大学の先生で履修のことなどで言っている内容が異なったため、困惑しました。また、自分で解決しようとしても青島大学の先生方は学生だからと下に見て相手にしてくれないことも多々ありました。これが留学中一番悔しいと感じたことでした。



留学に行く前に、私は留学中の目標を「HSK6級180点以上取得」に決めました。留学することで、中国の学生と当たり前のように交流ができると思っていました。しかし、留学生の寮と教室から中国の学生のそれは距離がとても離れており、留学生は隔離された状況です。そのため、中国の学生と交流する機会は自然にあるものではなかったです。留学生同士の交流ももちろん楽しいですが、中国語は発音が難しいため留学生同士だと伝わるけど、ネイティブの中国人には伝わらないということも多々ありました。このままではダメだと思い、日本語学科の学生と毎週相互学習をすることにしました。相互学習の時間に発音を確認してもらい、中国の生活や文化について聞き話す良い機会だったので毎週の楽しみでした。授業がない日には、市立図書館で中国の学生に混じって勉強しました。そしてなんとか、「HSK6級180点以上取得」という目標を達成することができました。

授業のクラスメイトは、韓国・タイ・ベラルーシ・ハンガリー・ドイツの国籍を持つ人たちでした。授業以外に一緒に餃子を作ったり、青島市内を観光したりしました。クラスメイトがテスト中に当たり前のようにカンニングするなど、文化の違いをたくさん知ることができました。また、先生はヨーロッパのクラスメイトにはすごく甘い態度であるように思いました。私の見て感じた範囲内の話ですが、中国の人は欧米崇拝主義である人も中にはいると思いました。納得できる理由も説明されず同じ日に青島に着いたにも関わらず寮の宿泊許可期間がルームメイトの方が一週間も長いことなど不可解なことが多くありました。また、中国は56民族からなる国家で、日本人とも顔が似ています。そのため、私はよく中国人に間違われ、言葉がうまく言えない時に「中国人でしょ？喋れないの？」などきつく言われているように感じた場面が少なくはなかったです。

この半年間は私にとってはとても長くて濃い留学生活でした。全てを踏まえて、留学はいい経験になったと思います。留学中は、文化の違いに困り、クラスの先生が私にだけ厳しい気がしたので、自己肯定感が低くなりました。しかし留学の経験を通して、自分の世界を広げることができ、異文化に対してもっと寛容的に見ることができるようになったと思います。また、留学して実際の中国を見ることで青島(中国)の良いところも悪いところもだいたい知ることができ、もっと中国に興味を持つようになったし、さらに中国語を勉強したいという気持ちになりました。大学中に念願の留学をすることができて本当に良かったと思います。

帰国後アンケート

派遣先大学	青島大学		留学許可期間	2018年9月3日～2019年1月31日
国名	中国		留学期間	2018年9月3日～2019年1月21日
必要な語学レベル	中国語検定4級		(履修期間)	2018年9月7日～2019年1月15日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	6,000円(半年)
	海外旅行保険代金	35,430円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	99,000円(半年)	入居申請料	13,000円(半年)
	食費	20,000円/月	水道光熱費	3,056円(半年)
	通学費	0円/月	その他()	
	携帯電話代金	640円(一ヶ月)	インターネット代金	8,000円(半年)
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	
	セメスター1授業料	0円/期	セメスター2授業料	
	教科書代	5,000円	教科書代	
	小遣い	20,000円/月	その他()	
滞在先	滞在先名	敏行楼		
	滞在方法	寮		
	滞在先の状況	同居者	有	同居者について 他国の留学生と同居
	部屋に備え付けのもの	ベッド、勉強机、トイレ、シャワー		
	持参した方がよいもの	ドライヤー、ヘアアイロン		
	食事のスタイル	朝食	外食	昼食
	夕食	大学の食堂	週末の食事	外食
通学	自宅から大学までの距離	300m	通学手段	徒歩
	通学所要時間	2分	その他の場合に記入	
履習	セメスター1で履修した科目	中級中国語総合、閲読、リスニング、文化、		
	セメスター2で履修した科目			
	平均授業時間	50分(1コマ)	その他()	
課外活動	サークル等	なし	活動経費	
	活動内容			
留学して良かったこと	語学だけではなく、中国の経済や文化を実際に肌で感じる事ができました。中国人だけでなく他の国の留学生とも交流できる。			
留学したことで不利益になったこと	就職活動が遅れること。			
留学を考えている人へのメッセージ	留学は旅行とは違い楽しいことより大変なことのほうが多かったです。文化背景の異なる様々な人と交流することができ、自分の考え方・価値観を大きく変えてくれる良い経験になると思います。			





銘傳大学（台湾・台北市）

概要

銘傳大学の前身は1957年に設立された「銘傳女子商業専科学校」で、台湾で最も歴史ある女子商業専門学校です。1997年に総合大学への昇格が認められ、現在では、修士課程、博士課程を併せ持つ男女共学の総合大学となっています。

2010年にアジア初の米国認証評価（MSCHE, Middle States Commission on Higher Education）取得大学となり、2012年に4月にアメリカのSaginaw Michigan 州（サギノーバレー州立大学構内）にも分校を設立しました。

銘傳大学は、「国家、並びに社会の発展を支える、責任感・倫理観・国際的視野・ビジネス感覚を備えた専門人材の育成」を教育の目標としています。創設者は台湾の経済発展にはビジネス人材が欠かせず、若い世代の教育が非常に重要になるという信念のもとに開学し、現学長も、創設者のこうした理念を受け継ぎ、「知識経済」時代と言われる今日に求められる優秀な人材の育成に力を注いでいます。現在までに11万人を超える卒業生を輩出しています。



学生数 約20,000人（内 大学院生1,670人、留学生2,123人）

学部

学部は、管理、マスコミ、デザイン、情報、観光、教育応用語文、健康、社会科学、法律、国際の10学部です。キャンパスは、台湾の台北・桃園・金門・馬祖、そして米国のSaginaw Michigan 州の5カ所にあり、学習支援を目的に、付属図書館・情報ネットワークセンター・総合教育センター・英語語学センター・中国語学文化センター・生涯教育センター・進路相談室・カウンセリング室・出版センター・教員育成センター・R&Dセンターなどが設立されています。



また、金融リサーチセンター・メディアリサーチセンター・中国情勢リサーチセンター・SMEインキュベーションセンターの4つの研究部門も併せもっています。

1990年に「応用日語組」がつくられ、1996年に応用日本語学科が設立されました。修士課程もあります。常勤教員は教授2名、副教授9名、助理教授5名、専任講師2名（日本人教員はその内3名）です。『銘傳日本語教育』という研究誌も刊行し、日本語教育に関するシンポジウムも毎年行っています。

キャンパス

Taipei Campus	250 Zhong Shan N. Rd., Sec. 5, Taipei
Taoyuan Campus	5 De Ming Rd., Gui Shan District, Taoyuan City
Jihe Campus	3F-8F, No.130, Jihe Rd., Shihlin District, Taipei City
Kinmen Campus	105 De Ming Rd., Jinsha Township, Kinmen County
Michigan Location	Gilbertson Hall, Saginaw Valley State University, 7400 Bay Road, Saginaw, MI



Homepage : <http://www.mcu.edu.tw/>



台湾留学を振り返って

所 属：国際商学科
氏 名：山西 あみ

台湾・桃園市にある銘傳大学に1年間留学しました。銘傳大学への派遣留学は私たちが初めてだったので、新たな生活に対する期待と同じくらい得体の知れない不安がありました。

留学する前から「台湾の中国語は言い回しや発音が大陸のものとは違うため気を付けなければならない」と言われていました。実際生活をしてみると確かにこれまで日本で習っていた中国語とは違い、台湾華語に慣れるまでが大変でした。しかし私は日本語学科に所属していたので、日本語ができるクラスメートたちが学校生活ではいつも付き添ってくれたので何不自由なく生活ができました。

留学を開始した前期はとにかく台湾華語に慣れるために中国語を中心に授業を受けていました。中国語の授業は、毎日午前中（9～12時）3時間あり、ほとんど休憩はありませんでしたが、少人数制で会話中心の授業だったため苦に思うことは少なかったです。また授業は実用的な会話を中心だったので、コミュニケーションを取れるようになるまでには比較的時間はかからなかったように思います。後期からは中国語以外の経済に関する授業も積極的に受講しました。年配の先生方の話す台湾華語は特に聞き取りが難しかったですが、それでも留学当初よりは遥かにリスニング能力も上がっていたため、授業に支障はありませんでした。中国語の授業は華語センターという外部の先生が教えてくださっていたため他の授業とは時間が違いましたが、大学の授業は50分×2時間、間に10分間の休憩を取るといったスタイルが基本です。また、年間を通して日本語劇の授業を取りましたが、毎年5月下旬もしくは6月初旬に開演される公演は日本語学科の一大イベントであり、日本語学科の留学生は必ずこの授業を取っているようでした。脚本も学生が作成し、その他の道具等もすべて一から手づくりのため大変やりがいがありました。

台湾は旧暦の正月を盛大に祝います。大体2月の半ばが旧正月にあたるのですが、丁度1月下旬から2月下旬までは冬休みだったため、私はクラスメートや仲のいい友達の家にお邪魔し台湾の旧正月を体験させてもらいました。台湾の縁起の良い色は赤色であるため、町中が赤色でいっぱいになります。また市場はお祝いの準備のための人でいっぱいになります。日本の正月と言えば静かなイメージがありますが、台湾の旧正月は真逆でとにかく賑やかです。夜通し爆竹や音楽、人の笑い声が聞こえ、とても楽しい気分新年を迎えることができます。

留学は楽しいことだけではありません。しかし、台湾の人々は本当に暖かく日本に対してもとても友好的です。台湾の土地自体もとても生活しやすいと思うので初めての海外暮らしには最適だと思います。是非台湾留学を検討してみてください！



帰国後アンケート

派遣先大学	銘傳大学		留学許可期間	2017年9月1日～ 2018年8月31日
国名	台湾		留学期間	2017年9月11日～2018年6月30日
必要な語学レベル	中国語検定4級		(履修期間)	2017年9月15日～2018年6月29日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	6,900円
	海外旅行保険代金	76,200円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	14,000円/月	入居申請料	7,500円
	食費	21,000円/月	水道光熱費	2,450円/月
	通学費	0円/月	その他()	
	携帯電話代金	0円/月	インターネット代金	0円/月
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	0円/期
	セメスター1授業料	0円/期	セメスター2授業料	0円/期
	教科書代	0円/期	教科書代	0円/期
	小遣い	28,000円/月	その他()	
滞在先	滞在先名	銘傳大学 徳明宿舍		
	滞在方法	寮		
	滞在先の状況	同居者 有	同居者について	現地学生と同居
	部屋に備え付けのもの	テレビ、エアコン、冷蔵庫、ベッド、机、椅子		
	持参した方がよいもの	薬など普段から自分が使って慣れているもの		
	食事のスタイル	朝食 夕食	外食 外食	昼食 週末の食事 大学の食堂
通学	自宅から大学までの距離	1km	通学手段	徒歩
	通学所要時間	15分	その他の場合に記入	
履習	セメスター1で履修した科目	中国語、日本語劇		合計4単位
	セメスター2で履修した科目	中国語、日本語劇、日本経済、全世界経済、観光日本語		合計11単位
	平均授業時間	50分/授業	その他()	基本は50分×2(10分間の休憩を挟む)が1教科
課外活動	サークル等	なし	活動経費	
	活動内容			
留学して良かったこと	現地の友達がたくさんでき、比較的日常生活には支障がない程度には中国語が理解でき、話せるようになったこと。			
留学したことで不利益になったこと	単位の取得がほとんどできなかったこと。			
留学を考えている人へのメッセージ	まずは自分のしたいことを優先してください。きっとどうにかになります。			



東義大学校市(韓国・釜山広域市)

概要

東義大学校は、釜山に15大学ある4年制大学のうちで、2番目に規模が大きく、美しいキャンパスを持ち、21世紀にふさわしい学生中心の教育環境と革新的な教育改革プログラムを提供しています。

東義大学校は1977年慶東工業専門学校を前身として設立されました。1979年東義大学に改編され、持続的な成長と発展を重ね、開校5年目の1983年に4年制の総合大学に昇格し、1989年韓医科大学が設立されて仁術を通じた社会奉仕の大きな役割を果たしている。現在9つの学部、6つの大学院、14の付属機関、40の研究施設、産学協力団傘下の16の付属機関と漢方医科大学附属韓方病院及び田浦総合社会福祉館、東義保育所があります。

また、スポーツの名門校でもあり、野球部、サッカー部の全国大会優勝をはじめ、フェンシング部はアジア大会においてメダルを獲得するなど、優秀な選手の育成にも努めています。さらに、映像大学ではイタリアの国際短編映画祭で特別賞を受賞するなど、様々な専門分野において優秀な総合大学です。



学生数 約22,000人 (内 大学院生560人、留学生270人)

学部 9学部78学科

Humanities and Social Sciences (人文社会科学学部)

Business & Economics (商経学部)

Natural Sciences (自然科学部)

Nursing, Healthcare Sciences and Human Ecology (医療保健生活学部)

Korean Medicine (東洋医学部)

IT Convergence College of Components and Materials Engineering
(IT融合部品素材工学部)

College of Engineering (工学部)

College of ICT (Information and Communication, Technologies) Engineering
(ICT [情報通信、テクノロジー] 工学部)

Art, Design and Sport Science (芸術デザイン体育学部)



キャンパス

伽倻キャンパス 釜山広域市釜山鎮区巖光路176

楊亭キャンパス 釜山広域市釜山鎮区楊亭路52-57

Homepage : <http://eng.deu.ac.kr/main.do>





周りに支えられた私の326日間

所 属：国際商学科
氏 名：岡崎 悠華

語学力の向上と異文化体験をしたいという目的をもって約10か月、韓国・釜山の東義大学校で留学をしてきました。最初は知人が誰もおらず一人で韓国に旅立ち、これから始まる夢だった韓国留学に期待が高まる一方、全て一人で生活することに対して不安も沢山ありました。実際に留学してみると、人間関係や授業がうまくいかずに泣いた日もあります。しかし、今この瞬間も留学をして良かったと笑顔で言えるのは、二つの理由があります。



一つ目は具体的な目標を設定したことです。私は、授業には無遅刻無欠席・予習復習は必ずする、友達を100人作る、韓国語能力試験6級取得という3つを目標に設定しました。私は前期には語学堂を、後期には専門授業を主に受講しました。もちろん韓国語で授業は難しいですが、きちんと目標を持つことで授業にもついていけ乗り越えられました。また、友達を100人作るという具体的な数字を設定したことにより、寮の中で過ごすだけでなく、外に出て様々な行事に積極的に参加したいという意欲が生まれ、そこで積極的に友達を作りました。そして何より、私の中で韓国語能力試験6級取得が大きな目標になっていました。留学に来たからには、語学力向上のためにも日本人とは一切遊ばずに、韓国人もしくは他の留学生と過ごし、公用語を全て韓国語にしました。そして学校からは下関市立大学を代表して留学をさせてもらっている、両親の大きな支援がなければ留学ができなかった、という気持ちを忘れないことです。私は形に残る成果を持たないと日本に帰れないという思いで勉強をしたことで、目標であった6級取得にもつながりました。

二つ目に、私は周り人たちに恵まれたことです。多くの友達ができましたが、特に私の1年間のルームメイトと、中国人の親友に沢山助けられました。語学堂は外国人ばかりで、普段韓国人と接する機会がなかった私に、ルームメイトは韓国人の友達をたくさん紹介してくれました。時には彼女の故郷を訪れ、彼女のご両親とご飯も食べました。なにより毎日彼女と韓国語で会話をすることで、語学力向上につながりました。またもう一人、中国人の親友のおかげで、私はさらに多くの外国人の友達を作ることができました。彼女と授業の休み時間のたびに一緒に休んだり、韓国語をともに高めあい、テスト前は朝から夜遅くまで毎日一緒に勉強をしたりしました。彼女は交友関係がとても広く積極的な性格だったので、イベントにもほぼすべて参加し、楽しい思い出をたくさん作りました。今でも連絡をしている大切な親友です。ルームメイトや中国人の親友以外にも、会うたびに声をかけてくれる沢山の優しい友達を作りました。沢山の周りの人たちののおかげで、楽しく1年間を過ごすことができました。

留学は決して楽しいだけではありませんでしたが、それ以上に留學生活で語学力だけでなく、大切な友達と、自信と経験という非常に大きなものを得られました。

最後に、私に326日間の大切な交換留学をさせていただいた先生方、国際交流センターの方々、両親に感謝し、私は得たものを忘れずに、これからも韓国語の勉強を続け、更なる上を目指します。たくさんのサポートをありがとうございました。

帰国後アンケート

派遣先大学	東義大学校		留学許可期間	2018年3月1日～2019年2月28日
国名	韓国		留学期間	2018年2月26日～2019年1月17日
必要な語学レベル	なし		(履修期間)	2018年3月1日～2018年12月25日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	0円
	海外旅行保険代金	84,470円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	75,000円/月	入居申請料	0円/年
	食費	38,000円/期(食堂130食分)	水道光熱費	0円/月
	通学費	0円/月	その他()	30,000円/月(食堂以外)
	携帯電話代金	2,000円/月	インターネット代金	
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	
	Semester1授業料	0円/期	Semester2授業料	0円/期
	教科書代	8,000円/期	教科書代	5,000円/期
	小遣い	35,000円/月	その他()	
滞在先	滞在先名	東義大学校 第2ヒョミン生活館		
	滞在先方法	寮		
	滞在先の状況	同居者	有	同居者について 現地学生と同居
	部屋に備え付けのもの	机、ベッド、トイレ、シャワー、洗面台、クローゼット、靴箱		
	持参した方がよいもの	薬、パソコン		
	食事のスタイル	朝食	大学の食堂	昼食
	夕食	外食	週末の食事	外食
通学	自宅から大学までの距離	大学の敷地内	通学手段	徒歩
	通学所要時間	5分	その他の場合に記入	
履修	Semester1で履修した科目	語学堂、日本列島紀行、外国人のための学習法セミナー1		
	Semester2で履修した科目	国際マーケティング、グローバル企業論、経済統合論、日本文化の理解と韓国文化、外国人のための学習法セミナー2		
	平均授業時間	50分/授業	その他()	
課外活動	サークル等	バトミントン	活動経費	1,000円/期
	活動内容	サークルに加入している学生とともに体育館でバトミントンをやる。MTもたまにある。		
留学して良かったこと	語学力の向上、様々な国から留学生が来るため、韓国以外の国籍の友達もたくさんできて、視野が広がった。自分のことを考える時間がたくさんあり、将来について考える機会になった。			
留学したことで不利益になったこと	就活が遅れること。帰国後、日本で残った単位の履修。			
留学を考えている人へのメッセージ	留学をして「住む」ということは楽しい旅行とは違い、大変で辛いこともあることを知りました。泣いたこともありました。しかし、今は留学をしてよかったと思います。なぜなら悩んだこと以上に得られるものがあったからです。留学を考えている人、ぜひ一歩踏み出すことをお勧めします。			





木浦大学校（韓国・木浦市）

概要

木浦大学校（The Mokpo National University）は、朝鮮半島南西部の重要都市である木浦市に位置しており、キャンパスは韓国で神聖視されている山の一つである僧達山（Seungdal-Mountain）のふもとにあります。

木浦大学校の第一の教育目標は、個々が選んだ研究分野における学術的理論や方法論を教えることで、才能ある学生を育成し国家および人類全体の繁栄に寄与することです。また、全羅南道における重要な高等教育機関としての役割を果たすため、アジア太平洋地域をはじめとした世界各地の大学との国際交流ならびに交流協定を推進し、木浦大学校を競争力のある国際的な大学にするよう意欲的に取り組んでいます。さらに木浦大学校は、理論と実践を兼ね備えた地域基盤の国際的な才能を養育・生み出すことで、地域発展につながるよう目指しています。



木浦大学校の教育哲学、教育理念である「創造・高潔・奉仕」に従って、地域社会を率いる力強いリーダーシップを持った人材を育てることにまい進しています。

沿革

- 1946年 木浦師範学校設立
- 1963年12月 木浦教育大学に改編
- 1978年3月 木浦初級大学になる
- 1979年3月 4年制の国立木浦大学になる
- 1990年3月 総合大学に昇格し、木浦大学校となる



学生数 約13,000人（学部生 約11,600人、大学院生 約1,400人）

学部

- Humanities（人文学部）
- Social sciences（社会科学学部）
- Natural sciences（自然科学学部）
- Engineering（工学部）
- Business Administration（経営学部）
- Human Ecology, Arts and Physical Education（生活科学芸術体育学部）
- Education（教育学部）
- Pharmacy（薬学部）
- Liberal Education（教養教育学部）



キャンパス

- 木浦キャンパス 全羅南道木浦市南農路41番キル11
- 南岳キャンパス 全羅南道務安郡三郷邑南岳里2540
- 道林キャンパス 全羅南道務安郡清溪面榮山路1666



Homepage : <http://eng.mokpo.ac.kr/index.9is/>



韓国留学

所 属：国際商学科
氏 名：中元 愛莉

私は韓国留学で非常に多くのことを学びました。高校のときから行きたかった韓国に留学に行けてとても嬉しかったです。留学に実際行く前は楽しいことばかり考えていて、ウキウキでした。ただ、実際には楽しかったことばかりではなく、辛いことも沢山ありました。楽しかったことでは、韓国人だけではなく海外の友達が出来たということです。海外の友達と友達になる前はその国に対して偏見を持っていたことも、実際その国の友達と話したり関わりを持ったりすることでその国に対する偏見もなくなりました。反対に、韓国に対して良いイメージばかりを持っていたけど、私が想像していることと全く違うことが少しありショックを受けたときもありました。だから最初は慣れることに必死だったけど、だんだん韓国の文化を理解して受け入れながら留学生活を送っていました。また、国自体の文化だけでなく、性格の面でも文化の違いが多くあり辛い時もありました。ただ私は、ルームメイトだった友達が日本人だったのでそこに大きく救われました。文化が違うからといって辛いことだけではなく楽しいことのほうが多くありました。友達たちは、1年もいられないのだからと言って沢山のことを一緒にしようと、美味しいものを沢山食べに行ったり、ショッピングしに行ったりと本当に友達には感謝でいっぱいです。

授業の面では、最初は専門用語ばかりで教授が何をいっているのか理解に苦しみました。さらに最初は友達もいなかったで誰に何を聞いたらいいいのかが分からなくて戸惑いました。でも、授業も慣れてだんだん言葉も理解出来始めて友達が出来てしまえば、最後まで手伝ってくれたのでテストもきちんと受けることができたし、レポートも提出することが出来ました。前期は語学堂で韓国語を学び、後期は語学堂には行かずに友達と沢山会話をしました。友達とひたすら会話することで、語学堂では学べなかったことも学べたので、やっぱり現地の人と会話を沢山することが1番の勉強法だと思いました。友達は、最初全然話せなかった私のことを面倒と思わずに、伝えたいことを最後まで聞いてくれて、また分かりやすいように、ひとつひとつ丁寧に私が理解できるまで話してくれました。韓国に行って言語の心配が多かったけど、不自由なく過ごすことができました。

やはり現地のことは現地に行き実際に分ることが多くあるので、留学は人生で1番の経験だと思います。言語だけの勉強ではなく、文化の壁を学びどう乗り越えるのかということも留学でできる勉強だと思います。辛いことも少しあったけど私は留学したことに後悔は全くしていません。韓国留学は、資格がなくても行けるので行きやすいし、他の国よりも安く行けるのでとてもお勧めです。



帰国後アンケート

派遣先大学	木浦大学校		留学許可期間	2018年3月1日～2019年2月29日
国名	韓国		留学期間	2018年2月26日～2018年12月20日
必要な語学レベル	なし		(履修期間)	2018年3月1日～2018年12月17日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	0円
	海外旅行保険代金	7万～8万	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	240,000円/1年	入居申請料	0円/年
	食費	寮費に込み	水道光熱費	0円/月
	通学費	0円/月	その他 ()	
	携帯電話代金	4,000円/月	インターネット代金	0円
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	0円/期
	セメスター1授業料	0円/期	セメスター2授業料	0円/期
	教科書代	10,000円/期	教科書代	10,000円/期
	小遣い	400,000円/年	その他 ()	
滞在先	滞在先名	木浦大学校の寮		
	滞在方法	寮		
	滞在先の状況	同居者	有	同居者について 日本人と同居
	部屋に備え付けのもの	机、いす、収納棚が6つ、ベッド、トイレ、シャワー、冷房、暖房		
	持参した方がよいもの	薬、味噌汁		
	食事のスタイル	朝食	付き	昼食
夕食		付き	週末の食事	寮のご飯
通学	自宅から大学までの距離		通学手段	徒歩
	通学所要時間	10分	その他の場合に記入	
履習	セメスター1で履修した科目	国際取引情報論、貿易実務、世界経済学、経済と人間生活、グローバル企業論、韓日大衆文化の理解		
	セメスター2で履修した科目	韓国経済の理解、グローバル商取引文化の理解、国際経営論、国際貿易環境論、国際マーケティング論、日本文学翻訳練習		
	平均授業時間	180分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	なし	活動経費	
	活動内容			
留学して良かったこと	日本と国外の文化の違いをすごく勉強することができました。わかわないことを投げやりにするのではなくて、きちんと理解するまで、悩むことができました。			
留学したことで不利益になったこと	日本の悪口を言われる			
留学を考えている人へのメッセージ	留学は想像通りに楽しいと思えるものではありません。自分の語学力の伸び方や文化の違いにすごく悩まされる時もありますが、それを乗り越えることで何か新しいものを得ることができます。留学はとても良い経験になると思います。			



ロス・メダノス・カレッジ (アメリカ・ピッツバーグ)

概要

ロス・メダノス・カレッジ (LMC) は、1974年にコントラ・コスタ・コミュニティ・カレッジ・ディストリクト (CCCCD) に属するコントラ・コスタ・コミュニティ・カレッジ (CCC)、ディアブロ・バレー・カレッジ (DVC) に続く、3番目のコミュニティカレッジとして設立されました。LMCは、カリフォルニア州ピッツバーグ市に位置し、修業期間2年のコミュニティカレッジです。大学名の語源はスペイン語であり、ロスとは内陸、メダノスとは砂丘の意味で、内陸の砂丘の大学という意味になります。

メインキャンパスは、サンフランシスコの東約40マイル、オークランドのバークレイの東30マイルに位置し、最寄りの空港はオークランド空港です。大学施設は、図書館、学部棟、プラネタリウム、音楽棟、陶芸棟など多くの建物で構成されています。2008年には新しく科学棟も設置されました。

学生数 約3,000人 (フルタイム学生)

専攻

Administration of Justice (司法)、Anthropology (人類学)、Appliance Service Technology (電気サービス技術)、Art (芸術)、Automotive Technology (自動車技術)、Biological Science (生物科学)、Business (ビジネス)、Chemistry (化学)、Child Development (子どもの発育)、Communication Studies (コミュニケーション研究)、Drama (ドラマ)、Computer Science (コンピュータ科学)、Electrical Technology (電気技術)、Emergency Medical Services (救急医療サービス)、Engineering (工学)、English (英語)、Fire Technology (消防技術)、History (歴史)、Journalism (ジャーナリズム)、Kinesiology (運動学)、Liberal Arts (一般教養教育)、Management and Supervision (管理と監督)、Mathematics (数学)、Music (音楽)、Nursing (看護)、Physics (物理)、Process Technology (プロセス技術)、Psychology (心理学)、Real Estate (不動産)、Recording Arts (レコーディング芸術)、Sociology (社会学)、Transfer Studies (転送研究)、Travel Marketing (旅行マーケティング)、Welding Technology (溶接技術)、World Languages (世界言語)

キャンパス

Los Medanos College 2700 East Leland Road, Pittsburg, CA

Homepage : <http://www.losmedanos.edu/>





2017年留学体験記

所 属：国際商学科
氏 名：小中 悠平

私は2017年8月から2018年5月までアメリカのロス・メダノス・カレッジへ派遣留学をさせていただきました。そこでの経験は私にとって全てが新鮮、非日常的で、語学力向上以上にそこでホストファミリー、様々な友達や教授等と出会い、また交流できたことはかけがえのない財産となりました。私の過ごした10カ月はあまりに早く、また非常に濃い充実した日々でした。以下、私が留学先で体験したポジティブな体験と困難に直面した面について書いていきたいと思います。今回の私の留学体験では特に人に大きく恵まれたのではないかと思います。留学期間開始直後すぐに現地の友達ができ、そこからコミュニティの和が広がりました。特に仲の良かった友達から毎週末になると遊びの連絡をしてくれて様々な場所へ連れて行って貰いました。ホストファミリーとの関係も非常に良好で、留学期間中何度も旅行へ連れて行って頂きました。現地でしか体験できないことに参加したり、様々な事について会話したり日本では決して出来ないことを数多く体験することができたと思います。当時の私を支えていただいたすべての人々に感謝申し上げます。

しかし、私の留学期間は全てが順調だったわけではありません。この期間中、私は人生で最も大きな壁に当たりました。留学前の私の英語に対する能力は非常に乏しく、留学開始後約3カ月間は相手の言っていることがほとんど理解できず、また会話をする際にも聞き取れないから答えることもできないという悪循環に陥りました。更に、他の学生と比べて私の英語力が元々、非常に乏しかったことから最初の数カ月間は人と交わることや会話することに対して抵抗がありました。当時の私は今までの人生の中でも特に大きな挫折を味わい、憂鬱な日々を送っていたと思います。今は楽観的に当時の記憶を振り返ることができますが、今後同じような体験はしたくありません。そのくらいこれらの日々は私の中で大きな出来事でした。

留学直後に現実を突きつけられた私は、これらの事実を受け入れ、留学終了後までの計画を立てました。計画として、まず文章を読むために必要な基礎的な単語量を更に増やすこと、娯楽に誘われた際や夕食後の時間を使用して現地の友達やホストファミリーなどと自発的に、積極的にコミュニケーションをはかること、そして読解力を養うために簡単な本を借り空き時間を利用して読み進めていくことを掲げました。当初は中々やる気が起きなく義務的に行っていたこれらの物事が、積み重ねていくことで習慣化し次第に自発的に行うようになってきました。3カ月が過ぎた辺りから次第に耳や会話することに慣れていき、少しずつですが私の英語の能力が上達していることを実感しました。最初のセメスターが終了したあたりからゆっくり、また躓きながらも自分の伝えたいことを言うことができるようになり通常の話で行われる会話についていくことが出来るようになりました。そしてこのプログラムが終了する頃には留学前の自分のスキルと比べて大きな成長、進歩を遂げられたのではないかと思います。



帰国後アンケート

派遣先大学	ロス・メダノス・カレッジ		留学許可期間	2017年8月1日～2018年7月31日
国名	アメリカ		留学期間	2017年8月6日～2018年5月30日
必要な語学レベル	英検二級程度		(履修期間)	2017年8月14日～2018年5月25日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	50,000円
	海外旅行保険代金	76,590円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	90,000円/月	入居申請料	0円/年
	食費	10,000円/月	水道光熱費	滞在費に含む
	通学費	5,000円/月	その他 ()	
	携帯電話代金	0円/月	インターネット代金	滞在費に含む
	履修登録料	授業料に含む	授業を受けるために必要なその他の費用	0円/期
	Semester1授業料	400,000円/期	Semester2授業料	500,000円/期
	教科書代	15,000円/期	教科書代	15,000円/期
	小遣い	20,000円/月	その他 ()	
滞在先	滞在先名	ホームステイ		
	滞在先方法	ホームステイ		
	滞在先の状況	同居者	無	同居者について
	部屋に備え付けのもの	ベッド、机、トイレ、シャワールーム		
	持参した方がよいもの	電子機器の変換プラグ		
	食事のスタイル	朝食付き	昼食	夕食
	夕食付き	週末の食事	付き	
通学	自宅から大学までの距離	5Km	通学手段	バス
	通学所要時間	40分	その他の場合に記入	
履修	Semester1で履修した科目	ESL11, 21, 32, counseling		
	Semester2で履修した科目	ESL24, 43, ENG83, 85		
	平均授業時間	90分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	なし	活動経費	
	活動内容			
留学して良かったこと	語学力の上達だけでなくコミュニケーション能力や日本の良さを客観的に見ることで再確認することができた。			
留学したことで不利益になったこと	3年時からの留学だったため、帰国後の就職活動に遅れるのではないかと不安だったがインターネットを通して情報を入手したり、友達から教えてもらいながらできる限りのことを現地で行った。			
留学を考えている人へのメッセージ	留学を考えている人は思い切って応募することをお勧めする。最初は不安だが行ってしまえばなんてことない。留学することは今後の人生において間違いなくプラスになると思う。			



アルゴマ大学 (カナダ・スーセントマリー)

沿革

アルゴマ大学での教育は、伝統と豊かな歴史に彩られています。1873年当時、シングウォーカーホールと呼ばれる北米先住民の子供たちが通う学校が設立されたのが始まりでした。

「小さな大学、豊かな教育」をモットーとしており、クラスの定員人数を少なく設定し、学生達に教室内での意見発表、活発なディスカッションを行い、独自の考えを持つことを推奨しています。授業が終わった後でも、サポートやガイダンス、指導などを気軽に受けられるようにしています。

また、アルゴマ大学は25以上の学位を授与できる多様性を備えている大学ですが、自分にふさわしい居場所を見つけられる、いわゆる「コミュニティ意識」を根付かせるのに手頃なサイズの大学です。

アルゴマ大学は3学期制度（秋学期：9月開始、冬学期1月開始、春学期5月開始）を採用しています。

校舎は、スーセントマリー市の昔ながらのランドマークとして有名で、セントマリー川を一望できます。また、スーセントマリー市は、世界保健機構（WHO）により、安全な国際コミュニティに指定されています。人口7万5千人のスーセントマリー市は、五大湖の中心部、アメリカとの国境に位置しています。地域の中心を担う便利な街というだけでなく、大自然の美しいアルゴマ地区がすぐそばにあり、都会のライフスタイルと精神的・身体的・社会的・文化的・知的な満足度高い日常生活の両方が手に入る都市のひとつでもあります。

学生数 約1,600人（内 留学生約20%）

専攻

会計学、アニッシミーペーモオィヌ（原住民の言語）、生物学、経営学、コミュニティディベロップメント、地域経済社会開発、コンピュータ科学、経済学、英語とメディア、金融と経済、美術、フランス語、地理学、歴史、法と司法、数学、音楽、政治学、心理学、ソーシャルワーク、社会学モットーと特徴

キャンパス

Algoma University 1520 Queen Street East Sault Ste. Marie, ON

Homepage : <https://www.algomau.ca/>





アルゴマ大学での8カ月間の留学を終えて

所 属：国際商学科
氏 名：中野 なつ美

大学2年の2018年5月から12月までの約8カ月間、カナダのオンタリオ州にあるアルゴマ大学に留学しました。中学校時代から英語が大好きで、高校ではロシア人や海外の生徒との国際交流事業に積極的に参加し、英語を勉強することをとても楽しく感じ、英語圏の国に留学することが大学生活の一番の目標になりました。入学してからすぐに、大学の留学プログラムの情報収集を行い、留学説明会や報告会に参加しました。その結果、多文化主義政策をとっている英語圏のカナダに強く興味を感じ、カナダのアルゴマ大学に留学を決心しました。

8カ月間は、日本では経験できない様々なことを学び人間として成長できたと思います。特に、積極性、行動力、自己解決能力、計画性を得ることができ、物事を見る視野がものすごく広がりました。

最初のセメスターは、大学付属英語学校で英語の文法・リスニング・リーディング・ライティング・プレゼンテーションや、学術論文を書く際の文献の探し方や引用方法を学びました。日本語でも論理的思考が苦手な私は、英語になると更に苦労しましたが、わからないことは理解できるまで、授業外でも先生と会って教えていただきました。理解できるようになると、とても嬉しく感じました。海外の授業では、理解していても、いなくても自分の意思表示を相手に示すことがとても重要です。授業で先生に質問されたことは、正誤関係なくとりあえず自分の答えを言うことが重要で、最初は勇気が必要でした。人は環境に慣れることができます。環境に溶け込むように努力したことで積極性を得ることができました。

後期のアカデミッククラスでは、ビジネスと地域経済の授業を、カナダ人や他国の年齢の幅広い学生達と一緒に受講しました。中国人やフィリピン人と友達になり、あまり興味がなかったアジア文化にも触れることができました。ビジネスの授業では、授業中にいきなりトピックを告げられ、グループで構成を考えプレゼンテーションを行う授業もありましたが、友人の助けで何とか乗り越えることができました。

留学中にして良かったことは旅行です。トロント、オタワ、モントリオール、ニューヨーク、ロサンゼルス、バンクーバーを旅しました。時には一人で旅行したこともあります。一人の時こそ自分と向き合い、弱点を知る良い機会でした。自分で航空券をとり、行きたい場所を調べ、安全確保を第一にしながらすべて自己責任で行いました。自分の英語力を知る機会にもなるし、出発前の恐怖心は、言葉に表せないような素晴らしい風景や良い人との出会いの喜びに変わりました。

留学したら自分が自然に変わるのではありません。留学して自分から変わろうと行動した人だけが成長することができるのです。留学を考えている人は、海外でたくさんのことに挑戦してください。



帰国後アンケート

派遣先大学	アルゴマ大学		留学許可期間	2018年5月1日～2019年3月31日
国名	カナダ		留学期間	2018年4月24日～2019年12月28日
必要な語学レベル	IELTS 5.5		(履修期間)	2018年5月1日～2018年12月10日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	10,250円
	海外旅行保険代金	68,390円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	61,295円/月	入居申請料	8,200円/年
	食費	ホームステイ代に含まれる	水道光熱費	ホームステイ代に含まれる
	通学費	3,075円/月	その他 ()	
	携帯電話代金	0円/月	インターネット代金	ホームステイ代に含まれる
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	大学の保険: 33,456円 施設使用料、その他: 32,196円
	セメスター1授業料	287,000円/期	セメスター2授業料	457,609円/期
	教科書代	0円/期	教科書代	10,000円/期
	小遣い	20,000円/月	その他 ()	
滞在先	滞在先名	Shannon Rd, Sault Ste. Marie		
	滞在方法	ホームステイ		
	滞在先の状況	同居者	無	同居者について
	部屋に備え付けのもの	ベッド、机、いす、棚、クローゼット、ハンガー、ライト		
	持参した方がよいもの	加湿器、薬、数枚のヒートテック、湿布、パソコン		
	食事のスタイル	朝食	付き	昼食
	夕食	付き	週末の食事	付き
通学	自宅から大学までの距離	5Km	通学手段	バス
	通学所要時間	40分	その他の場合に記入	
履習	セメスター1で履修した科目	Grammar, Reading, Writing, Listening and Note Taking, Oral presentation, Research Skills		
	セメスター2で履修した科目	Integrated Skills, Writing and Academic support, Introduction to Canadian Business, Introduction to Community Economics and Social Development		
	平均授業時間	90分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	ESL Instructor Assistant Student Volunteer	活動経費	0円/期
	活動内容	夏季休暇中に来る短期留学生に対する学習及び生活サポート		
留学して良かったこと	規則正しい生活が身に付いた。言語や文化の違いを知ることで、違う視点から物事を見れるようになった。コミュニケーション力や自己解決能力、計画性、行動力が身に付いた。自信をもって人前で発言できるようになった。			
留学したことで不利益になったこと	特になし			
留学を考えている人へのメッセージ	何事もまず行動しないと始まりません。留学を本気でしたいと思うなら、語学試験に向けての勉強や、行きたい留学先の情報収集を徹底的にしましょう。悔いのない留学生活を送るために、計画的に準備をすることが大切です。			



ボアジチ大学 (トルコ・イスタンブール)

概 要

ボアジチ大学（トルコ語：Boğaziçi Üniversitesi）は、トルコ共和国の西部に位置し、ボスポラス海峡を挟んで東西に広がるイスタンブール市にある国立大学です。「ボアジチ」はトルコ語で、ボスポラス海峡のことを指します。

1863年にアメリカ本国外に始めて創設された高等教育機関であるロバート・カレッジを通じてアメリカの教育システムを持つ大学として設立されました。

ボアジチ大学には、トルコの大学入試システムであるYGS-LYS (Student Selection and Placement System) で入学を希望する学生が最も多い大学です。

ボアジチ大学には、9つの学部と43の学科があり、多くの学生が入学を希望していることにより、教育、工学、社会科学、応用化学の分野において、優秀な学生が多数入学してきます。



学生数 約15,000人（内 留学生約500人）

学 部

Faculty of Arts and Sciences (学芸学部)

Faculty of Economics and Administrative Sciences
(経済学・行政学学部)

Faculty of Education (教育学部)

Faculty of Engineering (工学部)

The School of Applied Disciplines (応用分野学部)

The School of Foreign Languages (外語学部)

Ataturk Institute for Modern Turkish History
(近代トルコの歴史のためのアタチュルク研究所)

Institute of Biomedical Engineering (医用生体工学研究所)

Institute of Environmental Sciences (環境科学研究所)



キャンパス

South Campus Guney Kampusu Bogazici University Bebek 34342 Istanbul

North Campus Kuzey Kampusu Bogazici University Bebek 34342 Istanbul

Hisar Campus Hiser Kampusu Bogazici University Bebek 34342 Istanbul

Uçaksavar Campus Bogazici University Bebek 34342 Istanbul

Kandilli Campus 34684, Cengelkoy, Istanbul

Saritepe Campus Bogazici Universitesi Saritepe Kampusu 34450 Sariyer, Istanbul

Homepage : www.boun.edu.tr/en-US/Index



ボアジチ大学で学んで

所 属：国際商学科
氏 名：宮邊 結菜

私はトルコにあるボアジチ大学へ約10ヶ月間留学しました。ボアジチ大学ではほぼ全ての授業が英語で行われており、イスタンブールに6つのキャンパスを構えるトルコ国内トップの国立大学です。

私がボアジチ大学へ留学した理由は主に2つあります。

第1に、英語圏以外の国で生活し、学ぶことに興味があったからです。日本では英語圏への留学が一般的で、私も中高生の頃は海外ドラマや映画の影響で英語圏への留学に憧れていましたが、大学生になり留学を考えた時、あまり知らない言語や文化の中で生活してみたい、そこで学んでみたいと強く思うようになりました。

第2に、ボアジチ大学の学修環境が自分に適していたからです。ボアジチ大学では自分の学科の専門科目はもちろん他学科の授業も履修することができ、様々な分野を学ぶことができます。語学学校に通うのではなく留学先の大学で専門的な授業を履修したかったので、このシステムはとても魅力的でした。さらに、図書館もほぼ1年中24時間開いています。このように学習環境が整っていることがボアジチ大学にする大きな決め手でした。トルコ語が全く分からない私にとって、授業が英語で行われることも安心して留学ができる重要なポイントでした。

留学が始まった当初は、初めてのことで戸惑うこともありましたが、すぐに生活には慣れることができ、トルコ人学生だけでなく、様々な国の留学生と仲良くなりました。特に日本語学習者が多く在籍する日土(ニット)クラブのメンバーとは休日に遊びに出かけたり、放課後カフェに行ったりと沢山の思い出を作ることができました。トルコで1番レベルが高い大学ということもあり授業には予習や復習が欠かせませんでした。しかし、在籍した国際貿易学科は30人の少人数で行われる授業が多かったので、発言する場面やグループワークが多く、楽しみながら授業を受けました。ボアジチ大学には多種多様な国籍の先生方が在籍しており、観光学科には実際にホテルを運営している先生もいらっしゃいました。授業内容や授業形態も様々で、下関市立大学とは異なる授業を履修できたことは貴重な経験となりました。

特に印象深い授業は、ウクライナ人の先生の多文化環境におけるビジネスやコミュニケーションを学ぶ授業です。クラス内に交換留学生は私だけでアジアからの留学生は珍しかったこともあり、日本の話題を授業で取り扱ったり、発言する場所を与えてくださったりしました。またトルコではお互い外国人だったので自国との文化の違いなどを共有できたのも良い経験となりました。

留学中は楽しいことばかりだけではなく、予想もしていなかったトラブルに見舞われたことや、異文化理解に苦労することもありましたがその経験のおかげで大きく成長できました。今後もこの留学経験を活かし、残りの学生生活や将来を充実したものにするように努力していきます。



帰国後アンケート

派遣先大学	ボアジチ大学		留学許可期間	2017年9月1日～2018年8月31日
国名	トルコ		留学期間	2017年9月5日～2018年7月7日
必要な語学レベル	TOEFL iBT 79点、IELTS6.5点		(履修期間)	2017年9月18日～2018年5月28日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	0円
	海外旅行保険代金	90,000円	(歯科を含まない)	
	滞在費(家賃)	前期:80,000円/月 後期:25,000円/月	入居申請料	0円/年
	食費	10,000円/月	水道光熱費	
	通学費	0円/月	その他 ()	
	携帯電話代金	0円/月	インターネット代金	滞在費に含まれる
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	0円/期
	Semester1授業料	0円/期	Semester2授業料	0円/期
	教科書代	5,000円/期	教科書代	5,000円/期
	小遣い	必要に応じて	その他 ()	
滞在先	滞在先名	前期:スーパードーム(大学の学生寮) 後期:現地学生とシェアハウス		
	滞在先方法	前期:寮 後期:ハウスシェア		
	滞在先の状況	同居者 有 同居者について 現地学生と同居		
	部屋に備え付けのもの	前期:ベット、机、本棚、クローゼット 後期:基本的な家具全て		
	持参した方がよいもの	薬、日本食のインスタント食品、ヒートテック、パソコン、変換プラグ		
	食事のスタイル	朝食	大学の食堂	昼食
夕食		外食	週末の食事	外食、自炊
通学	自宅から大学までの距離	前期:1.2km 後期:400m	通学手段	徒歩
	通学所要時間	前期:15分 後期:5分	その他の場合に記入	
履修	Semester1で履修した科目	Elementary Turkish for Foreigners1(初級トルコ語), Economics1(ミクロ経済学), Advanced English1(上級英語1), Commercial Communications(商業コミュニケーション)		合計8単位
	Semester2で履修した科目	Korean History2(韓国歴史2), Advanced English2(上級英語2), Critical Reading(英文学のクリティカルリーディング), Legal Environment of Business(ビジネス法), Management & Organizations(経営と組織)		合計10単位
	平均授業時間	60分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	日土クラブ、ESNボアジチ	活動経費	0円/月
	活動内容	日土クラブ:日本語を学ぶトルコ人学生とイベントを開催する、休日に出かける ESNボアジチ:留学生がイベントに参加する		
留学して良かったこと	日本とは全く異なる文化体験が出来たことや語学力が上達したこと、様々な国の人と友達になれたこと。ボアジチ大学では語学だけではなく高いレベルの専門的な授業を履修できるところが良いと思います。			
留学したことで不利益になったこと	ゼミ活動において知識や経験などに半年分遅れが出たこと。派遣大学先と下関市立大学では履修や単位システムが異なるので単位獲得数が1年間で約半分になったこと。			
留学を考えている人へのメッセージ	トルコ語が分からなくても大丈夫です。トルコのトップレベルの大学で学べるので英語で専門的な内容を勉強したい方に適しています。充実した1年間で過ごせるので是非選択肢に入れてみてください。			





ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (ドイツ・ルートヴィヒスハーフェン)

概要

1965年に設立されたルートヴィヒスハーフェン経済大学は、ビジネス系の学術分野において、質の高い教育および研究に定評のある大学です。教学面での国際化にも非常に力を入れていて、海外でも高い評価を受けています。

2014年に本学との協定を締結した東アジアセンターは、1988年に設立され、経営学と日本学（または中国学）という二つの学科を、一つの専門コースとして組み合わせ、同時に学ぶことができるようになりました。約180人の学生は卒業時に日本または中国事情に詳しい「経営学士」の資格を得ることができますが、経営学士の資格を得る条件として、最低1年間の日本、または中国への留学を義務付けられています。

沿革

- 1988年－ラインラント・プファルツ州立大学 ルードヴィヒスハーフェン校にモデル校として試験的に「東アジアマーケティング学科」を設立
- 1992年－日本科を増設
- 1994年－第一期生 経営学士 (Diplom-Betriebswirt FH) として卒業
- 1997年－現在の建物に入居 「東アジアセンター」と名称の変更
- 2004年－卒業資格をDiplom からBachelor に変更
- 2008年－中部・東ヨーロッパセンター (MOI) 増設、設立20周年

学生数 4,500人 (内 留学生70人)

学部 4学部

Department of Management, Controlling, Healthcare
(管理、管理会計、医療介護学部)

Department of Marketing and Human Resource Management
(マーケティング、人的資源管理学部)

Department of Services and Consulting (サービス、コンサルティング学部)

Department of Social Work and Health Care (福祉、保健医療学部)

キャンパス

4 67059 Ludwigshafen am Rhein

Homepage : <http://www.hs-lu.de/en.html>





ドイツ留学を終えて

所 属：国際商学科
氏 名：竹口 美優

約10か月間ドイツのルードヴィヒスハーフェン経済大学に留学をしました。入学したときから「語学力を向上させたい」「一年間くらい違う国で生活してみたい」「異文化理解を深めたい」「人と違う経験をしたい」「外国人の友達をたくさん作りたい」という気持ちが強くありました。そこで、国際交流センターに相談に行ったときに、ドイツ人と出会い、たくさん話を聞く中で、ドイツに留学したいと思うようになりました。ドイツはEUの中でも一番の経済大国であり、ドイツの経済や文化などについてもっと知りたいと思うようになりました。

実際に留学してみると、自分の思い描いていた留学との違いや、語学力不足など日々悩んだり不安になることはありましたが、月日が経つにつれ徐々に慣れていきました。これまで日本では「英語を学ぶ」ということをしていましたが「英語で何かを学ぶ」という経験はなかったため、オールイングリッシュで行われる授業でテストを受けるというのは、とても大変でした。内容も経済という専門的な分野のため、専門用語も多く授業についていくことに必死でしたが、回数を重ねて単語を覚えたり、授業のスライドを復習することで少しずつ分かるようになりました。特に印象に残っている授業は、Business plan という違う国の留学生と5人組で自分たちの新しいビジネスを考え、先生に毎回フィードバックをもらいながら、最終的にプレゼンテーションをするという授業です。初めは英語で自分の意見を伝えることが難しく大変でした。また、国が違うことで考え方が異なり、グループワークの進め方に違いがあったり、1つのものを作り上げることが大変でしつかったです。しかし、発表も成功し、とても良いものを作り上げることができて達成感が大きかったです。異文化理解を深めるという点では、EU圏内であることを活用して、いろいろな国に旅行し、食・文化・遺産などを自分で感じるということを大切にしていました。違う国に行くことで、国内の制度や生活感が違い、新たな発見ができるため、とても面白かったです。

また、留学生も幅広く、アジアでは、韓国・台湾、アフリカ大陸からは、モロッコ・チュニジア、他にも、ロシア・バルト三国、フィンランドなど様々な国から来ており、いろいろな国の話を聞くことができ、とても興味深く楽しかったです。留学を通していろいろな国の友達を作ることができたというのは、とてもいい思い出です。

約1年間、日本を離れてドイツで生活をしてみて、人・気候・生活の仕方・制度の違いを多く感じ、慣れないときは大変に思うこともありましたが、ドイツ人の働き方などいい面も多く感じました。それと同時に、離れたからこそわかる日本の良さも感じることもできたと思います。留学をして、語学力だけでなく物事をいろいろな面から幅広く考えることが出来るようになりました。そして、自分の意見や考えをしっかりと相手にはっきり伝えることの大切さも学びました。これから経験と知識、語学力を活かし、いろいろなことに取り組んでいきたいです。



帰国後アンケート

派遣先大学	ルードヴィヒスハーフェン経済大学	留学許可期間	2017年9月1日～2018年 8月30日	
国 名	ドイツ	留学期間	2017年9月12日～2018年7月20日	
必要な語学レベル	IELTS 5.5	(履修期間)	2017年9月12日～2018年7月15日	
経 費	受入れ大学申請料		ビザ申請料 15,000円	
	海外旅行保険代金	84,470円	(歯科を含まない)	
	滞在費 (家賃)	36,000円/月	入居申請料	0円/年
	食 費	20,000円/月	水道光熱費	滞在費に含む
	通 学 費	21,000円/期	その他 ()	
	携帯電話代金	1,300円/月	インターネット代金	
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために 必要なその他の費用	0円/期
	セメスター1授業料	0円/期	セメスター2授業料	0円/期
	教科書代	2,000円/期	教科書代	2,000円/期
	小遣い	30,000円/月	その他 ()	
滞 在 先	滞在先名	Kanalstrasse		
	滞在方法	ルームシェア		
	滞在先の状況	同居者 有	同居者について	日本人と同居
	部屋に備え付けのもの	机、椅子、クローゼット、ベット、マットレス		
	持参した方がよいもの	軽い日本食、カイロ、箸、出生証明書		
	食事のスタイル	朝食 自炊	昼食 自炊	
	夕食 自炊	週末の食事	自炊	
通 学	自宅から大学 までの距離	2km	通学手段	バ ス
	通学所要時間	15分	その他の場合に記入	
履 習	セメスター1で 履修した科目	German, Germany today, Risk management, Brand management, Global logistics, Marketing		合計26単位
	セメスター2で 履修した科目	Business plan, Business English1, Negotiation and Meetings, Production Planning		合計23単位
	平均授業時間	90分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	なし	活動経費	
	活動内容			
留学して良かったこと	語学力を伸ばすことができる。異文化にたくさん触れることができ、視野が広がる。いろいろな国の友達を作ることができる。日本ではできない様々な経験ができる。EUのためいろいろな人がいたり自由に簡単に他の国に行ける。			
留学したことで 不利益になったこと	取れる単位数が現役生の半分以下になる。ゼミに遅れる。			
留学を考えている 人へのメッセージ	もちろん大変なことも多いですが、それよりも楽しいことや素敵な出会いはたくさんあります。英語圏に留学するのは違い、いろいろな経験ができます。人生の貴重な経験になると思います。			



クイーンズランド大学 (オーストラリア・ブリスベン)

概要

クイーンズランド大学は1909年12月10日ニューサウスウェールズ州からの独立50周年を記念して州議会で設立を制定され、それから4ヶ月後にクイーンズランド州で初めての大学、オーストラリアでは5番目の大学として設立されました。1911年、83人の学生（23人の女性を含む）がブリスベンのジョージ通りにある総督官邸で初めての授業に出席しました。

第一次世界大戦が終戦に差し掛かった頃から、高等教育の増加に応じて、研究や教育が急速に成長し、1922年にビクトリア公園の場所（現在、一部Mayne Medical Schoolが占めている）はクイーンズランド大学の永住の地として確保されました。後にフォーガンスミスビルと名付けられた最初の建物は、1939年に完成しました。第二次世界大戦のときにはこの建物を軍事目的に転用し、南部西太平洋の陸軍連合のための高度本部として最初の役目を果たしました。クイーンズランド大学のジョージ通りからSt. Lucia 地区への移転は1946年から1972年の間に完了しました。

2014-15年の世界大学ランキングトップ100位以内に入るクイーンズランド大学は、オーストラリアで最も高いランクの学習教育機関の一つです。海外からの留学生や交換留学生は、クイーンズランド大学の全6学部、4,000コースのほとんどの授業を受講することができます。

学生数 約52,000人（内 留学生15,400人）

学部 6学部

Business, Economics & Law（ビジネス、経済学、法学）

Engineering, Architecture & Information Technology（工学、建築、情報技術）

Health & Behavioural Sciences（保健、行動科学）

Humanities & Social Sciences（人文科学、社会科学）

Medicine（医学）

Science（科学）

キャンパス

St Lucia Campus The University of Queensland St Lucia QLD

Herston Campus 288 Herston Road, Herston, QLD

Gatton Campus The University of Queensland Gatton Campus QLD

Homepage : <http://www.uq.edu.au/studyabroad/>





10ヶ月間の留学を終えて

所 属：国際商学科
氏 名：多田 真美理

私はオーストラリアのクイーンズランド大学に10ヶ月間留学しました。今回の留学以前にオーストラリアには2回ほど行ったことがありましたが、いずれも1週間から2週間ほどの短期での旅行や研修だったため、海外に実際に住むという経験は今回が初めてでした。たくさんの期待と楽しみで始まった留学でしたが、初日に空港にスーツケースが届かないというハプニングがありました。すぐに受付に問い合わせ、翌日には返却してもらいました。保険にも加入していたため必需品の買い足しなどもできたので不便はそこまでなかったのですが、できれば避けたい出来事です。私は留学中に格安航空を使って、旅行をすることが多かったのですが、乗り継ぎが多かったり、厳しい重量制限、当日の急なキャンセルに見舞われたりすることもあったので、あまりオススメはしません。

現地の授業では、特に1学期目はあまり要領もわからない中での受講だったため、苦戦することが多かったです。課題の多い時期には三日三晩、学校の図書館でひたすらエッセイと戦ったこともありました。そんな中、支えになったのは友達存在です。大学自体がとても広大なため、友達と会う確率は極めて低いのですが、そんな状況下で会えると喜びもひとしおで、少し話すると気分転換にもなるし、大変なのはみんな同じだとわかることで私ももっと頑張らないと!とモチベーションにもなります。すべて終わって休みに入り、一緒に遊びに行ったり、旅行したりしたときは本当に頑張ってたよかったです。辛い時期があるからこそ、より一層楽しい時間を大切にすることができました。このようにある意味しっかりメリハリのついた現地の授業には圧倒されることも多かったですが、自分のためになったと思います。

最後に、留学期間中に学びで大切だなと思ったことを、たくさんある中から1つだけ紹介します。それは、イエスマンになることです。これは後から振り返って気づいたことなのですが、私はよっぽどのことがない限り友達からの誘いには、全部イエスと答えていました。「ジム行こう!」「ファームステイしてみない?」「〇〇フェスティバル行こうよ!」と、ありがたいことに友達はたくさんの遊びやイベントに誘ってくれました。今思うと、これらの誘いに乗っていたからこそ、なかなかできない経験をすることができました。そしてこれらの経験が友達とより仲良くなるきっかけにもなりました。たまには乗り気になれないこともあるけれど、行ってみれば、案外楽しいこともあります。楽しくないことでも友達と一緒に楽しくないねと言いながら楽しめます。そんな友達たちとは今でも連絡を取っているし、これからも仲良くしたいなと思える友達に出会えたことは私の留学生活における宝です。10ヶ月に及ぶ留学を1200字ではとてもまとめきれませんでした。今留学を考えている皆さんの参考に少しでもなれたら嬉しいです。ぜひ、イエスマンになっていろんなことに挑戦してみてください😊



帰国後アンケート

派遣先大学	クイーンズランド大学		留学許可期間	2018年2月1日～2019年1月31日
国名	オーストラリア		留学期間	2018年2月9日～2018年12月7日
必要な語学レベル	IELTS 6.5 (6.0)		(履修期間)	2018年2月19日～2018年11月17日
経費	受入れ大学申請料	0円	ビザ申請料	50,300円
	海外旅行保険代金	84,470円 (歯科を含まない)		
	滞在費(家賃)	前期:45,000円/月 後期:37,500円/月	入居申請料	0円/年
	食費	30,000円/月	水道光熱費	滞在費に含む
	通学費	4,000円/月	その他 ()	
	携帯電話代金	780円/月	インターネット代金	滞在費に含まれる
	履修登録料	0円/期	授業を受けるために必要なその他の費用	0円/期
	Semester1授業料	0円/期	Semester2授業料	0円/期
	教科書代	0円/期	教科書代	0円/期
	小遣い	70,000円/月 (奨学金) その他 ()		
滞在先	滞在先名	前期:大学から約7km離れたシェアハウス 後期:ルームシェア		
	滞在方法	前期:ハウスシェア 後期:ルームシェア		
	滞在先の状況	同居者 有	同居者について	現地学生と留学生と同居
	部屋に備え付けのもの	家具・家電		
	持参した方がよいもの	常備薬など		
	食事のスタイル	朝食 自炊	昼食	大学の食堂
	夕食 自炊	週末の食事	自炊や友人と夕食	
通学	自宅から大学までの距離	7Km	通学手段	バス
	通学所要時間	30分	その他の場合に記入	
履習	Semester1で履修した科目	ライティング、現代オーストラリア、異文化コミュニケーション		
	Semester2で履修した科目	マクロ経済、ミクロ経済、マーケティング		
	平均授業時間	110分/授業	その他 ()	
課外活動	サークル等	写真部、日本文化部、ボランティア部	活動経費	各部500円ずつ/年
	活動内容	写真撮影、日本語や英語でコミュニケーション、ゴミ拾いなどのボランティア活動		
留学して良かったこと	英語力の向上。			
留学したことで不利益になったこと	オーストラリアと日本の大学の単位制度が異なるため、日本の授業と同じくらいまたはそれ以上に時間や労力を費やした授業でも単位が少なく変換されること。			
留学を考えている人へのメッセージ	迷っているのであれば、勇気を出してチャレンジするべきと思う。英語はもちろん学ぶことがたくさんあり、自己成長にもつながると思う。私であればいつでも力になります、頑張ってください。			



グリフィス大学 (オーストラリア・ブリスベン)

概要

グリフィス大学は、1971年に創立され、約40年間の間で多様な研究分野を展開し、多くの卒業生を輩出してきました。130,000人以上の卒業生は、現在も国内外の各分野で活躍しています。

グリフィス大学はクイーンズランド州の州都ブリスベンと、観光都市として有名なゴールドコーストに位置する総合大学です。留学生を1988年に初めて受け入れ、2016年度には、約130ヶ国から集まった約9,000人の留学生が在籍しています。

また、オーストラリアで初めて環境学、アジア研究を取り入れたほか、芸術、医学、スポーツ科学、教育、ホスピタリティ、観光学、ビジネス、国際関係など、伝統的な専門区分にとられない幅広い学問的なプログラムを提供しています。幅広い領域にわたる教育研究を行っているため、1つの専門領域だけに偏らない、複合した領域を学ぶチャンスに恵まれています。

学生数 約40,000人 (内 留学生 約9,000人)

主な専攻

Business and Government
Criminology and Law
Education
Engineering and Information Technology
Environment, Planning and Architecture
Health
Humanities and Languages
Music
Science and Aviation
Visual and Creative Arts



キャンパス

Nathan Campus	170 Kessels Road Nathan, QLD
Mt. Gravatt Campus	176 Messines Ridge Road Mt Gravatt, QLD
South Bank Campus	226 Grey Street South Bank, QLD
Logan Campus	68 University Dr Meadowbrook, QLD
Gold Coast Campus	Parklands Drive, Southport, QLD

Homepage : <http://www.griffith.edu.au/>



外国研修

夏季休業期間中に2～5週間、英語、中国語、朝鮮語の各語学の研修を行う正規の授業科目です。

秋学期に国際コミュニケーションの単位として認定されます。

2018年度外国研修D（英語）

1. 研修先 VIEC Education Canada Ltd（カナダ ブリティッシュ・コロンビア州）
2. 旅行期間 2018年8月29日（水）～2018年9月18日（火）
3. 研修期間 2018年8月30日（木）～2018年9月14日（金）
4. 引率教員 高路 善章 教授
5. 参加人数 13名
6. 研修内容

8月29日（水）	福岡国際空港発 仁川空港で乗継
	バンクーバー空港到着 入国手続き後ワッセン港へ移動
	ワッセン港からBCフェリーを利用しスワルツベイ港着 オリエンテーション ホストファミリーと対面後ステイ先へ移動
8月30日（木） ～ 8月31日（金）	プレイスメントテスト クラス分け（Inlingua校またはSSLC校へ振り分け） 終日授業
9月1日（土） ～ 9月16日（日）	週中 午前：授業（於：Inlingua校またはSSLC校） 午後：アクティビティ等に参加 週末または土・日 終日自由行動（アクティビティの場合もあった）
9月17日（月）	各ステイ先からスワルツベイ港着 スワルツベイ港からBCフェリーを利用しワッセン港へ ワッセン港からバンクーバー空港へ移動 バンクーバー空港、出国手続き後空路仁川空港へ
9月18日（火）	仁川空港で乗継 福岡国際空港到着後入国手続き 解散

授業：第1週は毎日終日授業。第2週から午前のみ授業、午後はアクティビティ等に参加
滞在：ホームステイ





カナダで学んだ多くのこと

所 属：国際商学科
氏 名：磯邊 初佳

夏休み後半の3週間、カナダのヴィクトリアで行われた外国研修に参加しました。私にとって初めて親元を離れた英語圏での生活なのでとても不安でした。しかし、その不安はあつと言う間に消え、素晴らしい3週間で過ごすことが出来ました。

語学学校に通うまでの数日間はホストマザーが多くの場所に連れて行ってくれ、お話もたくさんしたことですぐに打ち解けることが出来ました。その後通い始めた語学学校でも先生をはじめ、多くの国の生徒の方々が話しかけてくれ、とても良い環境で英語を学ぶことが出来ました。

語学学校はホームステイ先からバスで15分ほどの場所にあり、ブラジルやパナマ、韓国など世界中の国から様々な年齢の人々が通っていました。その中でも日本人は特に多く約6割を占めていたのですが、日本語ではなく英語で話し合うのはとても新鮮でした。ワーキングホリデーで来ている方が多く、また夫婦で退職後に勉強をしにきた、という方もおり、年を重ねていっても常にチャレンジする精神はとても素敵だなと感じました。そのような方々と共に勉強することは、私にとってとても良い刺激になりました。

ホストファミリーはホストマザーと小型犬2匹で、休日には必ずみんなで出かけました。マザーは多くの場所に連れて行ってくれ、カナダの美しい自然や街並みはもちろん、スーパーマーケットや各地で開催されるフェスティバルなど、カナダでの日常も体感させてくれました。このような日々を送る中でひとつ大きく感じるがありました。それは「人とのつながり」です。どの場所に行ってもみなさん気さくに話しかけてくれ、とても暖かい気持ちになりました。コンビニエンスストアの店員さんでさえも、必ず笑顔で声をかけてくれました。これをホストマザーに伝えると「ヴィクトリアは日本と違ってのんびりとしたところだからね。」と言ってくれました。確かに一分一秒を大事にする日本とは環境が違いましたが、ひとりひとりとの関係を大切にすることは私も忘れたくないなと強く感じました。

最初は3週間で英語は上達するのかな？と聞いていましたが、今では胸を張って上達したと言えます。確かにまだまだ粗削りな英語ですが、コミュニケーション能力や、特に英語を恥ずかしがらずに話そうとする勇気が付きました。

これからもこのカナダで学んだ様々なことを忘れずに英語の勉強に励み、いつかまた必ずヴィクトリアを訪れたいと思います。



外国研修参加者レポート

研修先	VIEC Education Canada, Ltd.		国名	カナダ
期間	授業期間	2018年8月30日	～	2018年9月14日
(20泊 21日)	滞在期間	2018年8月29日	～	2018年9月17日
経費	研修代金総額		458,000円	
	内訳	おこづかい	90,000円	(備考) 学校からの補助金8万円
		授業料	80,000円	
		テキスト代	授業料込	
		通学費	8,000円	
海外旅行保険代金		5,990円	(歯科を含まない)	
小遣い等の持参方法	現金	90,000円分	プリペイド型外貨ATMカード	
	クレジットカード	持参した	その他 (トラベラーズチェック等)	
滞在先	滞在先名	ヴィクトリア		
	滞在方法	ホームステイ		
	同居者	1人	同居者について	市大の学生
	食事	朝食 付き 昼食 付き 夕食 付き		
	部屋に備え付けのもの	ベッド、クローゼット、ハンガー、鏡、机、椅子、テレビ、電気スタンド		
	持参した方が 良いもの	爪切り、ICチップ内蔵のクレジットカード (カナダはこのタイプが主流です)		
通学	自宅から学校までの距離	5km	通学手段	路線バス
	通学所要時間	15分	その他 ()	
履修	授業時間	1日の授業時間	305分	
		1週間の授業時間	25時間	
課外活動 (週末や授業終了後などに参加した活動など)	市内観光 研修に行った他の生徒とスポーツをした。			
良かったこと	ほとんど英語でしかコミュニケーションを取らないので、耳が自然と英語に慣れる。			
不利益になったこと	特になし			
参加を考えている人へのメッセージ	英語はもちろんですが、新たな価値観や出会いも見つけることができます。先生と一緒に行くので海外が初めてで不安な人におすすめです。			



2018年度外国研修D（中国語）

1. 研修先 銘傳大学（台湾 台北市）
2. 旅行期間 2018年9月8日（土）～2018年9月22日（土）
3. 研修期間 2018年9月10日（月）～2018年9月21日（金）
4. 引率教員 秋山 淳 准教授
5. 参加人数 30名
6. 研修内容

9月8日（土）	福岡空港発 桃園空港到着 入国手続き、銘傳大学のホテルへ移動 士林夜市観光
9月9日（日）	終日自由行動
9月10日（月）	始業式 プレイスメントテスト 銘傳大学日本語学科の学生と交流
9月11日（火） ～ 9月14日（金）	午前：授業 午後：文化体験等アクティビティ（桃園キャンパス訪問等）
9月15日（土）	バス観光ツアー
9月16日（日）	終日自由行動
9月17日（月） ～ 9月20日（木）	午前：授業 午後：文化体験等アクティビティ
9月21日（金）	中国語による最終発表会 終了式
9月22日（土）	桃園空港発、福岡空港到着 入国手続き、解散

授業：1週間に15時間（月～金は授業、土日は自由行動等）

滞在：銘傳大学のホテル





3度目の外国研修

所 属：公共マネジメント学科

氏 名：漆野 優輝

夏休みに3度目の外国研修、並びに2回目の台湾訪問をしました。外国研修は3回目だったため、出国自体の不安はあまりありませんでした。しかしながら一抹の不安を覚えることもありました。それは、中国語についてです。なぜなら、すでに中国語の履修を終えているため、出国時点で約半年間のブランクがあったからです。しかし台湾で授業を受けてみるとそれが杞憂であったと分かりました。

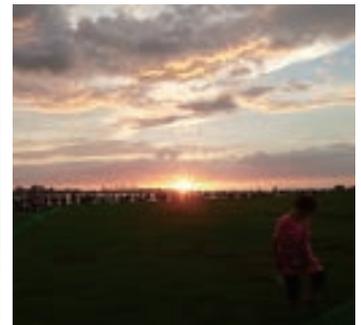
平日は午前9時10分から12時までが中国語の授業でした。銘傳大学に着いた初日にクラス分けテストがあり、A・Bの2クラスに振り分けられました。私は試験の結果Bクラスに振り分けられました。Bクラスは文法や単語を中心としたもので話す授業が多かったです。先生は私たちに分かりやすいように、説明や質問を行うときは、非常に平易な中国語で話してくださっていました。そのおかげでブランクがあっても理解することができました。また、すでに学習していることもあったので2年間の積み重ねが無駄になっていないことに安堵しました。

午後からはフリータイムで、いろいろなところへ観光に行きました。今回の研修にも国立故宮博物院や九份・十分、北投・淡水の観光と鳳梨酥DIYが入っていました。また、最初は予定に入っていなかった鼎泰豊にも行くことが出来ました。その他にも銘傳大学のチューターが、いろいろなところへ連れて行ってくれ、親切に対応してくれました。

最初の週の月曜日に銘傳大学の桃園キャンパスに在る応用日本語学科の学生と交流しました。日本語学科の学生と話してみると日本語を学んでいる理由はさまざまでした。「英語が苦手だから」という親近感が湧くもの、「将来は日本で働きたいから」という明確な目的をもって学んでいる人もいました。何れにせよ、やはり語学は興味をもって取り組むことが大切のように思います。

私が3度も研修に参加しているのは、外国研修に参加すると中国語に益々興味をもって取り組むことが出来るようになるからです。また、その「中国語に興味を持って取り組もう」という感覚を忘れないからです。

外国研修を通していろいろな人に触れあいました。また、想像していたことと違うこともありました。日本に住んでいると分からないことがたくさんあります。だから、外国研修に参加して海外との違いを知ることが出来たのは、人生の中の大きな財産となりました。この経験が今後の人生の糧になっていくと確信しています。



外国研修参加者レポート

研修先	銘傳大学		国名	台湾
期間	授業期間	2018年9月10日	～	2018年9月21日
(14泊 15日)	滞在期間	2018年9月8日	～	2018年9月22日
経費	研修代金総額		171,000円	
	内訳	おこづかい	50,000円	(備考)
		授業料		
		テキスト代		
		通学費		
海外旅行保険代金		4,850円	(歯科を含まない)	
小遣い等の持参方法	現金	50,000円分	プリペイド型外貨ATMカード	
	クレジットカード	持参しなかった	その他(トラベラーズチェック等)	
滞在先	滞在先名	銘傳大学		
	滞在方法	大学が運営するホテル		
	同居者	3人以上	同居者について	市大の学生
	食事	朝食 外食	昼食 外食	夕食 外食
	部屋に備え付けのもの	TV、冷蔵庫、ドライヤー、アメニティグッズ、Wi-Fi		
	持参した方がよいもの	リンス、トリートメント、洗濯用洗剤、ハンガー		
通学	自宅から学校までの距離	0km	通学手段	徒歩
	通学所要時間	2～3分	その他()	
履修	授業時間	1日の授業時間	150分	
		1週間の授業時間	13時間	
課外活動(週末や授業終了後などに参加した活動など)	観光(国立故宫博物院、北投・淡水、九份・十分、龍山寺・西門)			
	鳳梨酥DIY			
良かったこと	銘傳大学のチューターさんがいろいろと案内してくれたこと、故宫博物館などの観光が研修費に含まれているところ。			
不利益になったこと	大学のインターンシップと日程が被っているためインターンシップに参加できなかったこと。			
参加を考えている人へのメッセージ	日本と環境が似ており、違和感なく過ごせます。また、台湾は中国語があまり話せなくてもどうにかなります。そのため、初めての研修にはもってこいの場所だと思います。楽しそうだからという理由で参加してみるのもいいかもしれません。間違いなく人生の中で大きな財産になると思います。			



2018年度外国研修D（朝鮮語）

1. 研修先 東義大学校（韓国 釜山広域市）
2. 旅行期間 2018年8月12日（日）～8月25日（土）
3. 研修期間 2018年8月13日（月）～8月24日（金）
4. 引率教員 白川 春子 准教授
5. 参加人数 13名
6. 研修内容

8月12日（日）	福岡空港発 釜山空港到着 入国手続き、東義大学校へ移動
8月13日（月）	開講式・プレイスメント 授業開始・歓迎会
8月14日（火） ～ 8月17日（金）	9：00～14：40 授業 14：40～自由行動（アクティビティの場合有り） 東義大学校の学生チューターとの交流
8月18日（土）	屋外文化体験（市内ツアー）
8月19日（日）	終日自由行動
8月20日（月） ～ 8月23日（木）	9：00～14：40 授業 14：40～自由行動（アクティビティの場合有り） 東義大学校の学生チューターとの交流
8月24日（金）	達成度テスト 終了式・送別会
8月25日（土）	釜山空港発 福岡空港到着 入国手続き、解散

授業：1週間に20時間（月～金は授業、土日は自由行動）

滞在：東義大学校の寮





外国語研修に参加して

所 属：国際商学科
氏 名：加悦 優莉

夏休みの期間中に、韓国で2週間の語学研修に参加しました。この研修に参加するのは2回目でした。昨年は韓国語を積極的に話せなかったのですが、1年間下関市立大学で韓国語を学び、どれだけ成長したか確かめるために今年も参加しました。授業は、平日の午前90分授業が2コマ、午後には90分の韓国語練習があり、チューターと会話をしたり、授業の宿題をしたりしました。その他に文化体験や市内ツアーもありましたが、基本的に放課後は自由時間なので街に出て観光やショッピングを楽しむことができました。

授業は、レベルテストによって四つのクラスに分けられ、それぞれのレベルに合わせた授業が行われました。私は授業のほとんどを韓国語で行うクラスだったため、特にリスニング力を鍛えることができました。はじめは聞き取れても意味の分からない単語があり、推測で補うことが多かったのですが、2週間授業を受けていると、自然に先生がよく使うフレーズを覚えたり、新しい単語を覚えたりできたので、研修の終わりには授業のほとんどを理解することができました。

また、この研修では1対1で韓国学生チューターがついてくれます。日本語ができる学生もできない学生もいますが、2週間しっかりサポートしてくれる人たちばかりでした。私のチューターは日本語能力試験1級の人だったのですが、会話は簡単な韓国語で話し、分からないところがあれば日本語で補足説明をしてくれたので、この2週間だけでも積極的に韓国語を使って話せましたし、新しい単語や文法をたくさん覚えることができました。くじでパートナーが決まりますが、放課後は誰のチューターであるかは関係なく、大勢でごはんの美味しい店や観光などに連れて行ってくれました。

日本人学生だけで行動するときもありました。飲食店での注文などを自分たちだけで行うのは大変勉強になりました。外国人だからと英語で話してくる店員さん、滑舌が悪く聞き取りにくい店員さんなど様々な場面がありましたが、それぞれに応じた返答をし、意識して韓国語でコミュニケーションをとるようにしました。

短い期間でしたが、韓国で過ごす中で勉強したのを使ってコミュニケーションをとる楽しさを感じました。積極的に韓国語を話すうちにチューターとも仲良くなれました。2週間という期間はとても短く別れがつかったです。もっと韓国語を勉強してまた会いに行くと約束をしたので、次に行くときには成長した自分を見せられるように、これからも日々研鑽を積みまします。



外国研修参加者レポート

研修先	東義大学校		国名	韓国
期間	授業期間	2018年8月13日	～	2018年8月24日
(13泊 14日)	滞在期間	2018年8月12日	～	2018年8月25日
経費	研修代金総額		205,650円	
	内訳	おこづかい	60,000円	(備考) 補助金3万円
		授業料	78,000円	
		テキスト代	授業料込	
		通学費	0円	
		(旅費など)	63,000円	
海外旅行保険代金		4,650円	(歯科を含まない)	
小遣い等の持参方法	現金	60,000円分	プリペイド型 外貨ATMカード	
	クレジットカード	持参しなかった	その他(トラベラーズチェック等)	
滞在先	滞在先名	東義大学校		
	滞在方法	寮		
	同居者	1人	同居者について	市大の学生
	食事	朝食 付き	昼食 購入	夕食 外食
	部屋に備え付けのもの	エアコン、シャワー、コンセント、学習机、寝具、クローゼット		
	持参した方が 良いもの	ハンガー、ドライヤー、Wi-Fi		
通学	自宅から学校 までの距離	1km	通学手段	徒歩
	通学所要時間	7分	その他 (備考)	寮から講義棟までの距離・所要時間
履修	授業時間	1日の授業時間	180分	
		1週間の授業時間	12時間	
課外活動 (週末や授業終了後などに参加した活動など)	一対一でチューターがつき、授業期間中は毎日、チューターと課題をしたり会話練習をしたりする時間がある。			
	放課後は基本フリーだが、2日ほど文化体験があった。テコンドー体験、韓服体験、演劇鑑賞があった。			
	フリーの日には西面駅周辺でカフェ巡りや外食をしたり買い物をしたりした。			
	休日に一日かけて行う市内ツアーがある。博物館鑑賞、松島ケーブルカー、甘村文化村観光をした。			
良かったこと	語学力の向上、韓国人チューターや他大学の学生との交流			
不利益になったこと	特になし			
参加を考えている人へのメッセージ	授業はクラス分けされるので自分に合ったレベルで学習できるし、先生やチューターとの会話を通じて韓国語の実用的な能力を上げることができると思います。参加して良かったことしかないので、ぜひこの研修に参加して語学力を向上させ、そして素敵な友達を作ってきてください。			



その他の交流

2018年度生涯スポーツa（釜山ウォーキング）

1. 研修先 釜山市内 カルメッキル（ウォーキングコース）（韓国）
2. 研修期間 2018年9月20日（木）～2018年9月24日（月）
3. 引率教員 中嶋 健 教授、小笠原 正志 准教授
4. 参加人数 16名
5. 研修内容

9月20日（木）	16:30 16:45 18:00	下関港国際フェリーターミナル集合 開講式 関釜フェリー 乗船 出国手続き 船中泊
9月21日（金）	6:30 8:30 9:30 12:00 12:30 11:00 22:00	起床 関釜フェリー 下船 入国手続き 臨時首都博物館 東亜大学校博物館 見学 海雲台温泉 チェックイン 昼食（カムジャタン） 慶州市出発 グループ研修 各自夕食 海雲台温泉 ウォーキングレポート作成 点呼
9月22日（土）	7:30 8:00 9:50 10:10 11:30 12:30 17:30 22:00	起床 各自朝食 地下鉄で温泉場駅へ移動 温泉場の鹿泉ホテル チェックイン 釜山大学 大学街を散策 釜山大学周辺で昼食（サムギョプサル） 金井山 トレッキング 梵魚寺の境内で集合 各自 夕食 温泉場 ウォーキングレポート作成 点呼
9月23日（日）	7:30 8:00 8:10 8:45 9:25 9:45 12:00 17:30	起床 各自朝食 ホテル→温泉場駅→釜山駅→フェリーターミナル ターミナルに荷物を預ける→バスで中央駅へ 地下鉄中央駅から南川駅へ 南川駅からメガマートまで歩く トイレ休憩後カルメッキル2コースを歩く 五六島 到着 各自昼食 グループ研修 釜山国際フェリーターミナル3F 集合 フェリー乗船 各自夕食 グループ研修レポート作成 船中泊
9月24日（月）	6:30 7:45 8:20	起床 各自朝食 下船 入国手続き 閉講式

経済学科 2年 男性

二妓台コースを歩いて、前日にあまり眠れなかったこともあり、体力的にも精神的にもつらいウォーキングになった。しかし、広く青い海とその奥に見える街の景色を見ると、つらさなんて吹き飛んだ。



経済学科 3年 男性

名所であるスカイウォークを訪れた。床に透明なガラスが使われており、下の海をのぞくことができる場所だった。高所恐怖症なので、行けないかと思ったが行けた。

国際商学科 2年 女性

金井台コースの登りは、崖や階段や坂で、すごくしんどくて、リタイアしたいという気持ちが強かったが、なんとか頑張れた。1日に3万歩近く歩くということは、人生初なので、すごくいい経験になりました。ちゃんと日ごろの運動を大切にしようと思いました。

国際商学科 2年 女性

金井山は私にはとても厳しいコースだった。山くらい大丈夫だろうと思っていたが、今まで登ってきた山とは大違いだった。先生方や友達と楽しく話しながら、励まし合いながらだったから、頑張れたと思う。裸足で歩いていたおじさんに関しては、もうこの山に住んでいるのかと思った。

国際商学科 3年 男性

スカイウォークでは、無料で高画質の写真を撮って、スマホに転送までしてくれた。日本でこのサービスを受けようと思ったら1,000円は取られるんじゃないかと思う。観光客の増加に力を入れているのが分かった。



国際商学科 2年 女性

3日連続で昼食のデザートとしたソルビンは、別腹中の別腹で言葉にできないほどおいしかった。

公共マネジメント学科 4年 男性

韓国ではウォーキングや山登りが盛んになっていると聞いていたが、多くの韓国人が山登りを楽しんでおり、日本でも登山コースがより整備されれば登山が人気になり健康志向がより高まると感じた。

国際商学科 3年 男性

サムギョブサルの食べ放題で1,100円は日本では考えられないと思った。交通も、地下鉄の値段、バスの乗り継ぎ制度は魅力を感じた。



国際商学科 2年 女性

歩くのには自信があった私は、アップダウンがあることを完全になめていました。私はのろのろと歩いてきたけど、先生方が必ず後ろにいてくれて心強かったです。



国際商学科 2年 男性

その国の言語（今回なら韓国語）が分かっていなくても、やはり、英語が重要であると感じた。今回友人がある程度会話できたのでよかったが、しゃべれる人がいなければ非常に困っていた。

2019年度生涯スポーツb（韓国スキー実習）

1. 研修先 釜山市内 High1スキー場（韓国）
2. 研修期間 2019年2月10日（日）～2019年2月16日（土）
3. 引率教員 中嶋 健 教授、小笠原 正志 准教授
4. 参加人数 32名
5. 研修内容

2月10日（日）	16:30 21:00	下関市民活動センター中会議室集合 開講式 下関港国際フェリーターミナルへ移動 出国手続き 乗船（各自夕食） 出港 船中泊
2月11日（月）	7:00 8:00 8:30 11:40 12:00 17:30 20:00 23:00	起床 釜山港国際フェリーターミナル着 入国手続き 専用バスで釜山市内へ 釜山市近代歴史博物館、東義大学校などで研修 東義大学校から太白市ハイワン・リゾートスキー場へ移動 高速サービスエリア（各自昼食） ハイワン・リゾートスキー場チェックイン後夕食 全体講義（ハイワン・リゾートスキー場について） 点呼
2月12日（火） ） 2月13日（水）	7:00 7:30 8:30 16:00 17:30 20:00 23:00	起床 朝食 スキーレンタル等終了後、スキー講習開始 スキー講習班分け後、班別基礎講習 スキー講習終了 ハイワン・スキー場下町で夕食等 スキー講習復習レポート作成、ビデオ研修等 就寝
2月14日（木）	7:00 7:30 8:00 13:00 19:30 23:00	起床 朝食 スキー講習開始 グループ別応用滑走講習 スキー講習閉講式後、専用バスで釜山へ 釜山市内ホテル チェックイン 就寝
2月15日（金）	7:00 7:30 8:00 17:00 18:00 22:00	起床 朝食 各グループで釜山市内研修 釜山国際フェリーターミナル集合 エンジントラブルのためフェリーが欠航。カメラリアに変更し博多港へ 総括レポート作成 就寝 船中泊
2月16日（土）	8:00 8:30	博多国際港着 入国手続き 閉講式 閉講式後、専用バスで下関に移動、解散



釜山でのスキー研修

所 属：国際商学科
氏 名：岩井 麻衣子

2月10日から16日の1週間、韓国の釜山へスキー研修に行きました。10日の夜に下関港を出発した翌日の朝に釜山港に到着し、バスでハイワン・リゾートスキー場と呼ばれるスキー場を目指して出発しました。その途中で釜山タワーの近くにある龍頭山公園や光復路、下関市立大学と姉妹校である東義大学校を見学しました。そして夕方にスキー場に到着し、近くのお店で韓国料理を食べました。韓国は下関より少し寒かったけどおいしい鍋料理を食べて体が温まりました。



3日目からは本格的にスキー研修がスタートしました。私は何度かスキーに行ったことがあったけど、こんなにも多くのコースがあって大きいスキー場は初めてでとても驚きました。そして普通はリフトでコースを移動しますが、このスキー場は防寒対策のためゴンドラでの移動だったことにも驚きました。まずどれくらい滑れるかでグループ分けをして、各グループでスキー研修を行いました。中嶋先生と小笠原先生の他にもインストラクターの先生が3人来てくださり、各グループのレベルに合わせて指導してもらいました。修学旅行ぶりのスキーだったので初めは思うように滑れなかったけど、先生方に指導してもらい最終的には自分が滑りたいコースを自由に楽しく滑ることができました。約3日間のスキー研修が終わり、6日目は「韓国の食文化を学び、韓国の経済状況を知る」ことを目的に、各グループで釜山市内研修を行いました。前日までとは違って、事前に考えた計画書をもとに、地下鉄やタクシーを利用して自分たちで調べながら行動しました。私のグループは若者の街である西面や南浦洞に行き、代表的な韓国料理であるトッポギを食べたり、市場に行ったり、買い物をしたりしました。外国人観光客が多いだけあって、日本語や英語や中国語を話すことができる店員さんがたくさんいました。また日本と釜山は近いけど街並みは結構違って新鮮でした。研修が終わった後釜山港に集合し、釜山港から船に乗って下関に帰りました。

今回の研修を通して、スキーの技術の習得や韓国の文化体験をすることができました。これから先、韓国に旅行で行くことはあってもスキーで行くことはないと思うので、このような貴重な経験ができて良かったです。





「豊かさとは」を考える

所属：経済学科

氏名：長野 健太郎

ツアー期間：2018年9月2日～2018年9月8日

大学に入って何も成し遂げていないと感じていた私は、何かを手に入れるためにカンボジアへ行きました。夏休み前、海外に行きたいという軽い気持ちで国際交流センターに立ち寄った時、JAPFという団体が行っているツアーのポスターを見つけました。ポスターの楽しそうな雰囲気や値段の安さに惹かれ、カンボジアについて興味はなかったのですが、だからこそこの先行く機会はないだろうと思い参加を決心しました。



このツアーでは、語学研修や留学、インターンシップやボランティアなどと違い「スタディーツアー」として様々なジャンルの見学先12か所を訪れ、多くのことを学びました。自発的に話を聞き、見学することで、普通の旅行では得られない知識と達成感を得ることができました。

現地の日本語学校を訪れた際には、生徒の学ぶ意欲に驚かされ、嫌気がさす人もいるくらい学ぶことが当たり前になっている日本との違いを感じました。夢を持って努力をしている生徒を見ていると自分が恥ずかしくてたまりませんでした。孤児院や農村で生活をしている子供たちと交流した時には、現地の言語を話せない自分でも国境を超えて何か活動ができるということを知りました。そこでは、お互いが相手に伝えるために片言の英語と大袈裟なジェスチャーを使っていました。肌の色も文化も住んでいる場所も、そしておそらく思想も違う。そんな人同士でも笑顔さえあれば通じ合えるということに感動しました。

このツアーではカンボジアの負の遺産・地域にも行きました。キリングフィールド収容所という場所では、昔拷問に使われた道具や建物内部の構造、血痕までもが当時のまま残されており、その生々しい爪痕が、まるで見てきたかのように、当時の映像を私の脳裏に濃く焼きつけました。テレビでもたまに見かけるゴミ山を訪れたときには、ゴミ山で働く人たちが、見物に来た我々に対して慣れてるように感じ、その状況が何とも言えませんでした。「以前ここに来た人がいろんなものをくれたから今回も何かもらえらと思った」と私たちに物を乞う、あの少年の寂しそうな顔が今でも忘れられません。

このツアーでは、毎晩テーマに沿ってディスカッションを行います。最終日のディスカッションのテーマは「豊かさとは」。簡単な質問ですが答えるのは非常に難しいことです。日本に住んでいる私たちは経済的に言えばカンボジアの人達より豊かです。しかし、実際に交流してみると彼らの方が大きな夢を持ち、努力しています。大切な仲間と楽しそうに生活を送り、その上で私たちを暖かく迎え入れてくれました。「豊かさとは」何か、未だに答えることができません。しかし、夢を持つことは疎か夢を見つけることができない環境にいる人が世界にはたくさんいます。本当の支援とは何か。問いの中で答えが出せていないものがほとんどです。ただ、このツアーに参加したからこそ視野が広がり、いろいろな考え方ができるようになったと思います。興味がある人はもちろん興味がない人も、カンボジアに限らず一歩勇気を踏み出して海外に行ってみてください。

参加者レポート

参加プログラム	インターンシップ型スタディーツアー	参加期間	2018年9月2日～2018年9月9日		
国名	カンボジア				
経費	ビザ申請料	6,000円			
	海外旅行保険代金	9,750円	(歯科を含む)		
	参加費	158,000円			
	食費	参加費に含む ※自由行動時の食費は自己負担			
	携帯電話代金	なし	インターネット代金	なし	
	小遣い	30,000円			
滞在先	滞在先名	各地のホテル (三ツ星以上のホテル)			
	滞在方法	ホテル			
	滞在先の状況	同居者	有	同居者について	日本人と同居
	部屋に備え付けのもの	Wi-fi・バス・シャワー・トイレ・タオル 等			
	持参した方が 良いもの	正露丸やビオフェルミンなど(よくお腹を下す人)			
	食事のスタイル	朝食	付き	昼食	付き
		夕食	付き		
参加して良かったこと	カンボジアのことだけでなく様々な視点から物事を考える力が身についた。全国から学生が集まるので、色々な会話が生まれ広い範囲で友達が増えた。希望すればツアー後も様々な活動ができ、一度の機会が終わらない。				
参加したことで不利益になったこと	休学するわけではないので特にありませんが、現地の生ものを口にすると、お腹を壊すかもしれません。				
参加を考えている人へのメッセージ	留学に抵抗があった私にとっては、この短期でのツアーがぴったりでした。もし同じ境遇の人がいればJAPFが行うツアーに参加することをお勧めしたいですが、まずは自分が興味を持った外国に1度行ってみてください。友達と行ってみるのもいいかもしれませんよ。				





世界青年の船事業に参加して

所属：経済学科

氏名：本田 ひかり

参加期間：2018年1月20日～2018年3月3日

私は、大学4年の春休みを利用して、「平成29年度世界青年の船」に参加しました。内容としては、にっぽん丸という大きな船で日本人とスリランカやオーストラリア、メキシコなど10カ国の参加青年と共同生活をしながら国際交流をするという事業です。活動の中では、子供の人権や防災など様々なテーマを取り上げたディスカッションコースや和太鼓、ペルーのダンスなどのクラブ活動も存在します。また、ずっと船の中で滞在するのではなくインドとスリランカに降り立って、現地の大学生とディスカッションをしたりフリータイムで国立博物館に行ったりしました。



私がこの事業で行った代表的な活動は2つあります。まず1つ目は、船で開催された日本の物産展「JAPAN FESTIVAL」で山口県の「東洋美人」という地酒と「月でひろった卵」という銘菓を出展したことです。目的としては、外国青年に山口県の名産品や地酒を広めるというものでしたが、私たちの予想以上に多くの外国人が山口県のブースに来てくれ、商品について多くの感想を残してくれました。特に、東洋美人においては製造元の酒蔵を取材し、日本酒造りの工程を動画に編集してJAPAN FESTIVALで流したところ、評判がとても良かったので本当に嬉しかったです。

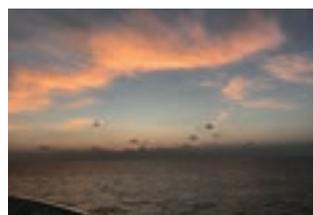
2つ目の活動は、LGBTなどのジェンダーに関する自主活動を開いたことです。内容としては、LGBTやジェンダーの概要、日本の同性カップルの事例を説明し、その後はフリートークとして自分の意見や経験をシェアしたのですが、多くの人が様々な意見を発信してくれ、とても充実した活動となりました。他にも、それぞれが自分の持っている一芸を披露する「Talent Show」で友達と傘回しをしたり、日本の武芸を発表するイベントで弓道の打つ姿を披露したりしました。

これらの活動で学んだことは、伝えることの重要性です。JAPAN FESにおいては、山口県の名産品や地酒の特徴を発信することで山口県に興味を持っていただいたり、ジェンダーに関する自主活動を開催した際には参加者が自分の体験を話すことで自分の過去を乗り越える姿を見ました。私は自分の気持ちや想い、情報などを伝えて相手が喜んでくれたり何かに興味を持ってくれたりする姿を見て、発信すること、伝えることの重要性を学びました。また、プログラム開始時は全ての会話が英語であることになかなか馴染めず、どのように外国青年と話せばよいのか分かりませんでした。自分の話したいこと、気持ちを片言でもいいので一生懸命相手に伝えれば、自分の想いは届くということを経験したことをコースディスカッションや自主活動などの様々な活動で学ぶことができました。加えて、この事業でできた世界中の外国人の友達、船でできた日本中の友達は私にとって人生の宝物です。

私は、事業の中で様々なことにチャレンジして多くの学びを得ました。今年から新社会人として社会に出ますが、社会人になった後もたくさんのことに挑戦していきたいと考えています。また、自分の意見に自信を持って発言することができるようになりましたので、伝える作業に重点を置いた仕事にも取り組んでみたいとも考えています。

参加者レポート

参加プログラム	平成29年度世界青年の船	参加期間	2018年1月20日～2018年3月3日	
国名	インド、スリランカ、シンガポール			
経費	ビザ申請料	滞在費に含む		
	海外旅行保険代金	滞在費に含む (歯科を含まない)		
	参加費	300,000円		
	食費	滞在費に含む		
	携帯電話代金	なし	インターネット代金	なし
	小遣い	約65,000円		
滞在先	滞在先名	につぼん丸		
	滞在方法	ルームシェア		
	滞在先の状況	同居者	有	同居者について 日本人と同居
	部屋に備え付けのもの	テレビ 冷蔵庫		
	持参した方がよいもの	日本からのお土産、サンダル		
	食事のスタイル	朝食	付き	昼食 付き
	夕食	付き	週末の食事 付き	
学 び	内 容	Children Right (子供と人権)		
	時 間	60分～90分/1コマ		
	形 式	ディスカッション		
課外活動	サークル等	メキシカン・ハンドクラフト	活動経費 0円	
	活動内容	メキシコのハンドクラフトでビーズのブレスレットを作ったり、魔除けである「神の目」を作ったりしました。		
参加して良かったこと	年代や国籍がバラバラな人たちとディスカッションをしたり、クラブ活動をしたりすることで、多様な価値観に触れることができました。参加者もユニークな人ばかりで毎日が楽しかったです。			
参加したことで不利益になったこと	参加時期と卒業論文の提出時期が重なってしまったのでほかの人よりも卒業論文を早めに仕上げたり、家族に代理で提出を頼んだりしたことが大変でした。			
参加を考えている人へのメッセージ	船内の共通言語が全て英語で上手に話せなかったり、活動が忙しくてやることが多くあったりと大変なこともたくさんありましたが全てが私の宝物です。少しでも興味を持った方はぜひチャレンジしてみてください！			



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

The wisdom of the Straits. To the future and to the world.

発行：2019年3月

編集：下関市立大学学務グループ 国際交流班

連絡先：〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号

電話 (083) 254-8693

FAX (083) 252-8099

URL <http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/kkc/>

印刷：泉菊印刷株式会社

〒752-0927 山口県下関市長府扇町8-48

電話 (083) 248-3553

FAX (083) 248-1492
